

ありがとう50年



金沢市学童野球連盟50周年記念誌

KANAZAWA GAKUDOU Baseball league 50th Anniversary



金沢市学童野球連盟



後援／金沢市教育委員会・公益社団法人金沢青年会議所

ホームページ <https://main-gakudou.ssl-lollipop.jp/kanazawa/>

五つのちかい

1. 自分のことは自分でしよう
1. 約束をまもろう
1. 友達を大切にしよう
1. 元気に笑顔であいさつしよう
1. じょうぶなからだをつくろう

“五つのちかい”的目的

この“五つのちかい”は私たちが日頃よく耳にしている言葉です。
しかし、自分自身はどうでしょうか。自分の子どもも、まわりの子どもたちはどうでしょうか。
世間では教育についていろいろ言われています。
誰れ彼れが悪いのではなく、それぞれの立場で次代の担い手をたくましく、のびのびと、
そして明るく育つように私たちは“五つのちかい”運動を、スポーツを通じて体力の向上に
併せ、推し進めていきたいと思います。

金沢市学童野球連盟創立 50 周年記念式典・記念祝賀会
令和 7 年度納会 式次第

【第1部 記念式典】

1. 開式の辞
 2. 式辞
金沢市学童野球連盟理事長 安崎 安徳
 3. 功労者表彰
宮村信一様 山本智久様 松田敏幸様
田中秀吉様 塩見一久様 前茂様
籠内啓志様 様 様 様
 4. 謝辞 塩見 明久 様
 5. 来賓祝辞
金沢市長 山村弘彦様
公益社団法人金沢青年会議所理事長 沢村豊正様
石川県野球協会理事長 宮川彦博様
金沢市野球協会会长 杉本正博様
 6. 閉式の辞
金沢市学童野球連盟副理事長 畠中範一

【第2部 記念祝賀会・納会】

1. 開会の辞
 2. 挨拶 金沢市学童野球連盟理事長 安崎 安徳
 3. 来賓紹介
石川県学童野球連盟会長
石川県学童野球連盟理事長
金沢南北口一タリーワークラブ会長
北國新聞社地域ビジネス局事業部長
中日新聞社北陸本社営業局事業部長
株式会社石川ミリオンスターズ
代表取締役
選手代表
トップインターナショナル株式会社営業部課長
株式会社共同写真企画中部支店長
地町守農竹
宮滝宗中佐
治泰也幸
利重卓裕
様様様様
端保浦野
北健哲
聰那二也
様様様様
内橋
4. 乾杯
石川県学童野球連盟会長 宮地 治 様
 5. 祝宴
 6. 閉会の辞「万歳三唱」
金沢市学童野球連盟副理事長 米林 貴広

祝　辞

金沢市長　村　山　　卓



この度、金沢市学童野球連盟が創立50周年を迎えられましたことを、心よりお祝いを申し上げます。

貴連盟におかれましては、昭和50年に創設され、昭和・平成・令和と、50年もの永きに渡り、本市学童野球の振興及び競技力向上に対し、多大なるお力添えをいたしております。

野球を通じて、たくさんの素晴らしい子ども達を、連盟から輩出されてきましたのも、連盟の運営に携わってこられた、役員の皆様を始め、各チームの監督、コーチ、スタッフ、さらには保護者の皆様などの温かいご指導、ご支援のおかげであり、ここに深く敬意を表する次第であります。

また、貴連盟において、学童野球を通じて、東京都板橋区との親善交流大会を定期的に実施され、大会を通じ、両都市の友好親善のつながりを深めて頂いております。これからも、引き続き、両都市の学童野球の普及・発展にも大きなお力添えをいただきます様、お願い申し上げます。

近年、少子化や、スポーツに対するニーズの多様化が進むなど、学童野球を取り巻く環境は、大きく変わりつつあります。そのような状況下におかれましては、学童野球のスローガンにありますとおり、子ども達が、たくましく、のびのびと明るく育つ様、「五つのちかい」運動をこれからも、推し進めていただきます事を、心より期待しております。

どうぞ、指導者、保護者をはじめとする関係者の皆様におかれましては、引き続き、子どもたちの成長を温かく見守っていただくとともに、学童野球を通じた、金沢市のスポーツ文化の振興、さらには地域の発展に変わらぬお力添えを賜ります様、改めてお願い申し上げます。

結びに、金沢市学童野球連盟様の今後益々のご発展を祈念いたしまして、お祝いのことばといたします。

お祝いのことば

金沢市教育長 野口 弘



金沢市学童野球連盟が、このたび創立 50 周年を迎えたことを、心からお祝いを申し上げます。

昭和 50 年に貴連盟が創設され、野球を通じて、明るく、正しく、たくましい健全な学童を育成することを目的とし、各チームは日々努力を重ねてこられました。これまでの長きにわたり、地域における青少年の健全育成にご尽力されてきたことに、心から敬意を表します。

また、本年 8 月には、50 周年記念事業として、板橋区軟式野球連盟との交流事業を実施し、交流を通して様々な経験を得たと伺っております。貴連盟の取り組みは、子どもたちの視野を広げ、新たな学びを提供する、大変意義深いものであると思います。野球は、子どもからお年寄りまで男女を問わず、国民的なスポーツとして親しまれ、最近では、海外での日本人選手の活躍が、子どもたちや多くの人々に夢や希望を与えてています。

貴連盟の歴代選手の中には、プロ野球選手となられた先輩方もいらっしゃいます。選手の皆さんには、先輩方が築き上げた伝統を受け継ぎ、夢や目標に向けて、仲間とともに練習に励んでいただきたいと願っています。

また、皆さんが、大好きな野球をできるのは、監督やコーチ、地域の皆様、そして、いつも温かく見守り応援している家族のおかげです。その感謝の気持ちを大切にしていただきたいと思います。

子どもたちが元気にスポーツに取り組む姿勢が、地域全体を明るく元気にしてくれると確信しています。指導に当たられる皆様には、引き続き次代を担う元気な子どもたちを育てていただきたくお願い申し上げます。

結びに、記念すべき 50 周年を節目として、貴連盟および加盟チームの益々のご発展を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

祝　辞

板橋区長　坂　本　健



金沢市学童野球連盟が創立 50 周年という輝かしい節目を迎えたことに、心からお祝いを申し上げます。

金沢市と板橋区は、江戸時代に加賀藩の下屋敷が板橋区内にあったという歴史的背景から、現在に至るまで深いつながりを持つ都市です。両都市の交流は、昭和 54 年以来、文化・教育・産業・観光など幅広い分野で発展を続け、平成 20 年 7 月の「友好交流都市協定」締結により、さらに強固な絆で結ばれています。

また、金沢市の皆様には「板橋 City マラソン」「いたばし花火大会」「いたばし区民まつり」など、多岐にわたる区内行事にご協力いただいております。

特に本年 8 月には、貴連盟のご厚意により、板橋区の子どもたちを金沢市にお招きいただき、表敬訪問や交流試合といった貴重な機会を賜るとともに、金沢の豊かな歴史と文化に触れながら、野球を通じて絆を深めることができました。この経験は、子どもたちの成長にとって計り知れない価値があるものと推察しております。心より感謝申し上げます。

貴連盟の皆様には、これからも子どもたちにスポーツの持つチームワークや協調性を育み、心身ともに健全に成長できるよう、引き続きご指導を賜りたく存じます。

結びに、金沢市学童野球連盟が栄えある 50 周年を迎えたことを改めてお祝い申し上げますとともに、貴連盟の今後一層のご発展と、関係の皆様のご健勝、選手の皆さんの更なるご活躍をお祈り申し上げ、ごあいさつといたします。

祝　辞



公益社団法人金沢青年会議所
理事長 米沢 有弘

金沢市学童野球連盟創立 50 周年を心よりお祝い申し上げます。安崎理事長をはじめ、連盟の皆様の日頃のご尽力に深く敬意を表するとともに、平素より公益社団法人金沢青年会議所の活動に対し格別のご理解とご支援を賜っておりますことに、厚く御礼申し上げます。

貴連盟と当会議所との関わりを象徴する「JC 犬鷲旗争奪大会」も、本年度で第 50 回という大きな節目を迎えました。本年度も春季大会の開会式にてご挨拶の機会を賜り、また観戦もさせていただきましたが、選手たちのはつらつとした姿と白球を追う真剣な眼差しに、私自身大きな感銘を受けました。大会で唱和される「五つのちかい」は、他者を思いやる心や礼節を重んじる精神を育むものであり、テクノロジーの進化により人間関係が希薄化しつつある現代社会において、青少年の健全育成に果たす学童野球の役割はますます重要になっていくと感じております。

当会議所といたしましても、今後とも貴連盟と手を携え、子どもたちが野球を愛し、野球を通じて健全な精神と身体を育むことができるよう、活動の一端を担わせていただく所存でございます。

結びに、金沢市学童野球連盟の更なるご発展と、連盟役員の皆様をはじめ、各チーム指導者並びに保護者の皆様のご健勝とご活躍を心よりご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



創立 50 周年を迎えて

金沢市学童野球連盟
理事長 安崎 安徳

この度、金沢市学童野球連盟は創立 50 周年という記念すべき節目の年を迎えることができました。このように 50 周年を迎えるのも、ひとえに歴代理事長、役員並びに金沢市をはじめとした関係各位のみなさま、そして何よりも連盟の歴史を共に歩んできたチーム関係者のたゆみない努力とご支援の賜物と心より敬意と感謝を申し上げます。

当連盟の目的でありますように「野球を通じて明るく、正しく、たくましい健全な学童を育成する」には、地域の大切な子ども達をあずかり、立派に次のステージへ送り出す使命があり、それは地域社会への大きな貢献であります。そのためには、チームは学校や公民館をはじめとした地域の支えによって成り立っているところであり、感謝する次第であります。

長い歴史のなかで、学童野球を取り巻く環境が大きく変わってきました。

少子化やスポーツの多様化により、ピーク時は 45 チームありましたが、現在は 37 チームと減少しましたが、登録選手はここ 10 年では 900 名程度を維持しており、減少傾向に一定の歯止めをかけている状況であります。なお、女子選手は倍増しています。

また、スポーツ界ではパワーハラ事案がまだ後を絶たない状況であり、とりわけ子ども達を指導する指導者のみなさんには時代の流れにあった指導方法や子ども達との接し方など常にアップデートして頂き、マナーアップの向上が求められています。

一方、忘れてならないのは、2019 年末より始まった新型コロナウィルスのパンデミックにより、社会環境・日常生活が大きく変わりました。我々学童野球の活動においても制限のあるなか、様々な対策を講じつつ活動を継続してまいりました。

そして、令和 6 年 1 月 1 日に発災しました能登半島地震では、甚大な被害を受け多くの犠牲者が出了ました。とりわけ当連盟所属選手の尊い命が奪われましたことは誠に残念でなりません。被災地では学童野球を取り巻く環境が大きく変わり、今も十分な野球活動が出来ない状況が続いていることを私たちは決して忘れてはなりません。

新たな取り組みとしましては、「女子選手の底辺拡大、育成・強化」を目的として女子チーム『金沢球姫』を結成し、今年で創部 3 年目のシーズンを迎えました。活動は徐々に定着し、女子選手ならではのチームワークの良さと友だちの輪が広がっております。

また、平成 24 年度よりスタートしました「板橋区との学童野球交流大会」ですが、8 回目となる今年度は創立 50 周年記念事業として金沢で開催し、交流試合の他にキャンプファイヤーや金沢の文化・史跡めぐりも行い、有意義な交流会となりました。このような両市区の学童野球を通じた交流は欠かせない取り組みであり、今後も継続してまいります。

最後になりますが、この節目の年を「金沢市学童野球連盟」の新たなステージへの出発点と捉え更なる発展に向けて、引き続き、子ども達の心身の「健全育成」や地域行事等への積極的参加など、地域社会への貢献に努めていく所存でありますので、関係各位のなお一層のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

金沢市学童野球連盟

石川県金沢市で活動している学童野球の団体です。37チームが加盟し、「五つのちかい」のスローガンのもと野球を通じて明るく、正しく、たくましい健全な学童を育成することを目的としています。

連盟の創設

昭和50年(1975年)7月、光が丘ホークス初代監督 中山晃氏が、初代理事長となる。

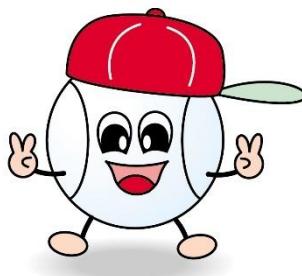
昭和51年(1976年)に浅野町チャレンジャー、湯涌ジャガーズ、米丸クラブ、BBC金沢、額新ビクトリー、光が丘ホークス、光が丘ライオンズ、光が丘レッドタイガースの8チームにより、金沢市学童野球連盟として活動をスタートしました。

歴代の理事長

初代理事長	中山 晃	(1976~1980)
第2代理事長	沖 邦宏	(1981~1982)
第3代理事長	北森 卵一朗	(1983~1990)
第4代理事長	的場 暎夫	(1991~2003)
第5代理事長	渡辺 富男	(2004~2007)
第6代理事長	三浦 清宏	(2008~2017)
第7代理事長	吉田 裕行	(2018~2021)
第8代理事長	安崎 安徳	(2022~)

球ちゃん、グ一坊、がんバットくん

ぼくたち三人組は、金沢市学童野球の選手の公募によって生まれました。野球をするみんなが大好きです。たくさん練習して野球がじょうずになるよう応援しています。



球ちゃん



グ一坊



がんバットくん

夢はノーヒット・ノーランです ゴールデングラブを目指し練習しています ホームラン王になることが目標です

主な活動

- 1月
- 2月 総会
- 3月 登録受付、アナウンス講習会、新任者研修、審判講習会
- 4月 オープニングラリー、ブロック大会、ティーボール体験会
- 5月 春季大会、金沢市プロスポーツ応援デー(石川ミリオンスターズ)、フレッシュジュニア春季大会
- 6月
- 7月 夏季大会
- 8月 (全国大会)
- 9月 秋季大会、新人大会
- 10月 フレッシュジュニア秋季大会、金沢マラソン(沿道応援サポーター)
- 11月 野球肘検診
- 12月 納会

金沢市学童野球連盟 2025 年役員

名誉会長 金沢市長 村山 卓
顧問 公益社団法人金沢青年会議所 理事長 米沢 有弘

理事名簿

<u>理事長</u>	安崎 安徳(夕日寺)
<u>副理事長</u>	中川 政一(安原)※ 畑中 範一(米泉)※ 米林 貴広(菊川)※
<u>事務局長</u>	三木 隆宏(鞍月)
<u>事務局次長</u>	山田 亮彦(長坂台) 田畠 哲也(扇台) 山口 仁(大浦木越)
<u>総務部長</u>	下川 邦夫(浅野町)
<u>総務副部長</u>	向 雅美(犀川) 宮川 義章(金沢西) 藤川 敦士(額)※
<u>広報部長</u>	米林 貴広(菊川)
<u>広報副部長</u>	森田 慎司(三和) 相原 勇也(西南部) 山野 裕史(小坂)
<u>会計部長</u>	米澤 旭博(千坂)
<u>会計副部長</u>	柿谷 忠之(十一屋)
<u>法務部長</u>	大川 昭夫(高尾台)
<u>法務副部長</u>	谷江 康一(三馬)
<u>大会運営部長</u>	中川 政一(安原)
<u>大会運営副部長</u>	稻村 清和(田上)※ 千葉 一茂(粟崎)※ 小竹 康之(米丸)※ 前川 芳弘(森本)※
<u>東部地区部長</u>	稻村 清和(田上)
<u>東部地区副部長</u>	萩原 和洋(金沢城東)
<u>西部地区部長</u>	千葉 一茂(粟崎)
<u>西部地区副部長</u>	立岡 邦生(みどり)
<u>南部地区部長</u>	小竹 康之(米丸)
<u>南部地区副部長</u>	藤川 敦士(額)
<u>北部地区部長</u>	前川 芳弘(森本)
<u>北部地区副部長</u>	奥村 悠祐(浅野川)
<u>審判部長</u>	畠中 範一(米泉)
<u>審判部事務局長</u>	中山 孝仁(北部推薦)
<u>代表者代表</u>	波多 陽祐(金沢城東) 中邑 康弘(金沢西) 西出 素規(扇台) 吉田 英樹(森山)
<u>監督代表</u>	佐藤 大樹(菊川) 平木 淳史(三和) 北川 貴昌(西南部) 百々 大介(大浦木越)
<u>大会運営</u>	古川 敦(金沢泉野) 北 祐介(金沢城東) 青田 駆(兼六) 幸野 正幸(中央)
	木嬰 公志(金沢西) 高橋 真哉(木曳野) 前田 大輔(木曳野) 奥田 大蔵(鞍月)
	三井 和久(戸板) 中村 孝佳(長田町) 沖平 政人(三和) 松下 永悟(四十万)
	濱村 晃司(新神田) 中川 信一(米泉) 吉田 淳一(千坂) 金藤 幸一(諸江)
<u>会計監事</u>	山下 進 森 則夫

《石川県学童野球連盟(金沢市学童野球連盟推薦・選出分)》

安崎 安徳(副理事長) 中川 政一(運営部長) 小竹 康之(エリア長・金沢)
稻村 清和(理事) 前川 芳弘(理事) 三木 隆宏(理事) 畠中 範一(審判副部長)

※は兼務

審判理事名簿

【東部地区】

連盟副部長 松本 慎司(東部推薦)
東部部長 由雄 一洋(長坂台)
東部副部長 宮竹 龍夫(兼六)
審判理事 真井 務(金沢泉野) 田村 亮太(金沢泉野) 宮村 健太郎(金沢城東)、
伊東 進一(金沢城東) 山下 宣浩(金沢城東) 川端 賢治(菊川)
日数谷 太(菊川) 佐藤 友昭(菊川) 中村 孝(兼六) 城山 克志(犀川)
手島 康宏(犀川) 米永 毅(犀川) 釣賀 達夫(十一屋) 田宮 圭大(十一屋)
池辺 奏(十一屋) 堀江 健(田上) 松村 篤欣(田上) 三谷 公人(中央)
三谷 伸吾(中央) 太田 健司(中央) 猿谷 淳(長坂台) 廣重 貴博(東部推薦)

【西部地区】

連盟副部長 中田 俊良(西部推薦)
西部部長 村上 伸靖(長田町)
西部副部長 今牛 忍(木曳野)
審判理事 儀丹 正幸(粟崎) 伊藤 嵩浩(粟崎) 野澤 一弥(金沢西) 小笠原安啓(金沢西)
中田 大樹(金沢西) 林 与之(木曳野) 今村 良春(鞍月) 荒木 光聖(鞍月)
水藤 彰典(戸板) 曽福 勇志(戸板) 中村 孝佳(長田町) 鳩 司(みどり)
小俣 郁夫(みどり) 荒木 洋平(みどり) 坂元 信行(三和) 坂本 貴一(三和)
明円 隆(安原) 水口 昭夫(安原)

【南部地区】

連盟審判部長 畑中 範一(押野)
連盟副部長 兼 南部部長 窪田 泰之(西南部)
南部副部長 馬渕 尚文(西南部)
審判理事 勘田 敬吾(扇台) 金岡 伸幸(扇台) 伊東 政宏(四十万) 干場 隆晴(四十万)
真鍋 隆晴(四十万) 中祢 瞬佑(新神田) 河内 康雄(西南部)
開敷 冠(高尾台) 田中 孝幸(高尾台) 宮下 和芳(額) 西出 健(額)
中川 和宏(額) 二又 義和(額) 田鍋 嘉紀(三馬) 木村 朋伸(三馬)
相内 洋(三馬) 中川 信一(米泉) 松原 匡孝(米泉) 西川 茂(米丸)
今井 秀明(米丸)

【北部地区】

連盟副部長 松田 隆(北部推薦)
審判指導員 中島 忠(夕日寺)
北部部長 兼 連盟事務局長 中山 孝仁(北部推薦)
北部副部長 西川 賢(森本)
審判理事 今井 真也(北部推薦) 真館 英誉(浅野川) 橋詰 和雄(浅野川)
大野 善久(浅野町) 渡部 公正(浅野町) 森田 和彦(大浦木越)
今井 和宏(大浦木越) 宮崎 和則(小坂) 欠 重樹(小坂)
丹保 太一(小坂) 井高 久志(千坂) 小野 晴央(千坂) 高瀬 廣宣(千坂)
吉田 博紀(森本) 吉田 英樹(森山) 山中 豊(諸江) 山田 健二(諸江)
山内 徹(夕日寺)



金沢泉野フレッシャーズ



過去のユニフォーム

金沢市学童野球連盟創立 50 周年、誠におめでとうございます。

私たち金沢泉野フレッシャーズは 1976 年に設立され、来年 50 周年を迎えます。泉野小学校、泉小学校、附属小学校の選手たちが、泉野小学校グラウンドを拠点に活動しています。2024 年に西武ライオンズからドラフト一位で指名された斎藤大翔選手をはじめ、多くの選手を輩出してまいりました。これはひとえに、連盟の運営を支えてこられた多くの役員の皆様、審判員の皆様ならびに関係者の皆様のおかげであり、心より感謝申し上げます。さらに、学童野球連盟に所属する他のチームにおかれましても、公式戦においては良きライバルである一方、練習試合や合同練習の機会をいただき、厚く御礼申し上げます。

フレッシャーズでは、野球を通じて親子の絆を深め、子どもたちに仲間の大切さを伝えることを理念としています。さらに、日々の練習を通じた技術と体力の向上を目指すだけでなく、近年は選手たちが自ら考え行動できるよう指導に努めています。監督の信念である、選手・指導者・保護者の「三位一体」ならびに「日々成長」をチームのコンセプトとし、選手だけでなく指導者や保護者も共に成長できるチームを目指しています。

これまでの地域の方々と積み重ねてきた努力と歴史があってこそ、今のフレッシャーズがあります。そのことへの感謝と敬意を忘れず、これからもチーム一丸となってさらなる飛躍と発展を目指していきます。

初出場 1978 年

・泉野フレッシャーズ(1978)

・金沢泉野フレッシャーズ(1991)

主な戦績

- ・ブロック大会 優勝 7 準優勝 5
- ・夏季大会 優勝 3 準優勝 1
- ・秋季大会 準優勝 1
- ・SJ 大会 優勝 1
- ・新人大会 優勝 3 準優勝 1
- ・FJ 春季大会 優勝 1 準優勝 1
- ・FJ 秋季大会 優勝 2
- ・県大会出場 12 回



年	監督	主将	選手
2025	池田信	鷹取諒	25 名
2024	池田信	池田将都	24 名
2023	池田信	石田航大	29 名
2022	新明洋平	新明慶史	29 名
2021	新明洋平	安井響	28 名
2020	池田信	斎藤樹希	26 名
2019	池田信	池田球児	19 名
2018	河村克敏	斎藤大翔	18 名
2017	河村克敏	尾崎功明	20 名
2016	河村克敏	丸岡仙彦	16 名
2015	河村克敏	河村健太	16 名
2014	下谷秀昭	山口信也	19 名
2013	下谷秀昭	丸岡宗彦	22 名
2012	武部浩一	松下昂平	27 名
2011	武部浩一	長谷川寛人	27 名
2010	武部浩一	前田陽平	32 名
2009	武部浩一	山下翔平	31 名
2008	武部浩一	村上剣士朗	30 名
2007	武部浩一	山田泰史	32 名
2006	武部浩一	中井要介	40 名
2005	武部浩一	鷹栖彬	45 名
2004	水野高士	武藤風行	46 名
2003	水野高士	太田貴裕	44 名
2002	水野高士	高山翔平	40 名
2001	水野高士	向山成人	39 名
2000	水野高士	森山誠	24 名
1999	水野高士	高口剛介	22 名
1998	水野高士	中崎功太郎	25 名
1997	水野高士	木村亮太	32 名
1996	水野高士	千田祐治	25 名
1995	水野高士	北澤達也	19 名
1994	水野高士	北真英	16 名
1993	水野高士	西江洋介	24 名
1992	水野高士	西恭平	20 名
1991	水野高士	牧野浩和	40 名

金沢城東メッツ



金沢市学童野球連盟発足50周年おめでとうございます。50年の長きに渡り、我々の愛する野球の底辺拡大のためにご尽力頂き感謝申し上げます。

さて、我がチームも発足49年を迎えました。その間約600名のOBを輩出し、野球関係のみならず、職場や街の思わぬところでメッツを通したご縁を懐かしむ元選手・元保護者の方とお会いすることは多いです。原風景としてその後の成長にも大きく影響するのだと感じています。

最近の子ども達は自己肯定感が低下していると言われています。様々なスポーツがある中で野球の持つ価値は何か。どうすれば親子に選んでもらえるのか。答えは簡単に見つかりませんが、「小さな成功体験」「信頼できる大人から認められる経験」を積んでいくことを心がけ、試行錯誤を続けています。

子ども達が自信を持って自分の人生を生きていけるように、その手助けとなるようなチームであり続けたいです。

これからの金沢市学童野球連盟のますますのご発展を祈念いたしております。

金沢城東メッツ 前監督 池脇拓郎

初出場 1977年

・金沢城東メッツ(1977)

主な戦績

- ・ブロック大会 優勝 20 準優勝 5
- ・春季大会 優勝 6 準優勝 8
- ・夏季大会 優勝 9 準優勝 1
- ・秋季大会 優勝 10 準優勝 6
- ・SJ 大会 優勝 2 準優勝 2
- ・新人大会 優勝 5 準優勝 8
- ・FJ 春季大会 優勝 5 準優勝 1
- ・FJ 秋季大会 優勝 6 準優勝 1
- ・県大会出場 60回
- ・全国大会出場

1985、1991(全国制覇)、2021



過去のユニフォーム

年	監督	主将	選手
2025	古川皓介	勝田朝光	35名
2024	池脇拓郎	久田進之介	35名
2023	池脇拓郎	鈴木咲陽	34名
2022	池脇拓郎	池脇建	34名
2021	池脇拓郎	松本壮平	44名
2020	池脇拓郎	池脇楨	49名
2019	池脇拓郎	伊東聖太郎	41名
2018	池脇拓郎	飛驒敏也	33名
2017	池脇拓郎	松本岬大	27名
2016	池脇拓郎	架谷岳	30名
2015	池脇拓郎	新保朋也	24名
2014	池脇拓郎	屋敷雄太	24名
2013	池脇拓郎	架谷宗	34名
2012	池脇拓郎	樺見俊佑	37名
2011	寺西陽一	野村勇樹	43名
2010	寺西陽一	館成旺	42名
2009	寺西陽一	山下晋作	36名
2008	寺西陽一	谷内祐太	46名
2007	寺西陽一	宮澤攻	40名
2006	寺西陽一	林敬人	45名
2005	寺西陽一	滝町亮輔	48名
2004	邑井裕和	山下将吾	50名
2003	邑井裕和	前田耕作	41名
2002	邑井裕和	上野谷直樹	44名
2001	邑井裕和	谷路健二	42名
2000	邑井裕和	太田宅哉	33名
1999	邑井裕和	大谷岳	33名
1998	邑井裕和	山下隼佑	28名
1997	邑井裕和	大友一平	37名
1996	邑井裕和	谷路俊	22名
1995	邑井裕和	笹井真吾	23名
1994	大畑勇一	西山雅浩	37名
1993	大畑勇一	上野拓馬	57名
1992	大畑勇一	新保厚史	43名
1991	大畑勇一	土谷亮	61名

全国大会出場の思い出 金沢城東メッツ(2021年)



「苦くも、かけがえのない思い出」

金沢城東メッツ 前監督 池脇拓郎

2021年マクドナルド杯全国大会は自分にとって、苦い思い出でした。

その年の6年生は、野球を始めるのが早かった選手が多く力がありました。全国大会出場、全国大会で勝つことを目標とし、「負けない」ために練習を繰り返していました。負ける要素を少しでも減らすために、「終盤2点差あるときはどう守るか」「1点差だったら?」「ヒットエンドランを外されたらランナーはどう動くか」「相手の投げたボールがクセ球で曲がったらどう対処するか」「ランナー2塁でサードゴロが来たら2塁ランナーを刺しにいく」など、かなりマニアックな練習に取り組んだことを覚えています。

監督生活の中で、自チームも含め、力があっても勝ち切れなかったチームはたくさんありました。思っていた通り金沢市・県の予選は、厳しい戦いが続きました。県大会決勝戦は名将倉知監督率いる中条ブルーインパルスです。これまでに監督の差で負けたことが何度もありました。試合前、選手には「監督で勝負すると負けるから、みんなの力で勝ちきってくれ」と伝えました。サインなし、選手のおかげで何とか勝ち切りました。自分にとって初の全国大会。選手に感謝すると同時に本音ではホッとしていました。

全国大会で勝つことを目指し、全国でも一番力があると言われていた愛知県「北名古屋ドリームス」まで出向き練習試合で胸を借りました。結果は、7-8サヨナラ負け。初めての負け、全国トップクラスの打力に衝撃を受けました。

その週に抽選があり一回戦の相手決まりました。相手はまさかの北名古屋ドリームス！岡監督から「あちゃー。もっと後からやりたかったね。」と連絡あり。自分も同じ思いました。その後、コロナが再び流行り、制限がある中でしたができる限りの準備をして全国大会初戦を迎えました。

試合結果は11-7の敗戦。敗因は子ども達の力の差ではありませんでした。監督としての力の無さ。たくさん的人に応援されて出場した全国大会。勝たせてあげられず子ども達に申し訳なく、情けない気持ちでいっぱいでした。

学童野球に関わってきた16年間。子ども達と同じ目標を持ち、毎年本気で取り組んだこと。練習の成果を出し、スタンド・ベンチみんなで喜びあったこと。負けた試合の後の月曜日は職場に行きたくなかったこと。全てのシーンが尊い思い出となっています。

現在学童野球に関わっている全ての方々、これから関わっていく方には、その価値の高さをお伝えできれば幸いです。皆様のますますのご健勝をお祈りしております。

菊川クラブ



初出場 1981 年

・菊川クラブ(1981)

主な戦績

- ・ブロック大会 優勝 1 準優勝 1
- ・秋季大会 準優勝 1
- ・新人大会 準優勝 1
- ・FJ 秋季大会 準優勝 1
- ・県大会出場 4 回



過去のユニフォーム

この度、金沢市学童野球連盟が創立 50 周年を迎えることを、心よりお祝い申し上げます。

私たち菊川クラブも、本年で創立 45 周年を迎えることができました。菊川町小学校と新豊町小学校の統合により犀川小学校となりましたが、児童数は多くなく、また小さなグラウンドで活動しているため、さまざまなグラウンドをお借りしながら日々練習に励んでおります。そのような環境の中でも多くの子どもたちが菊川クラブに入り、野球の楽しさを感じながら成長できているのは、連盟の皆様が試合運営や各種イベントを通して子どもたちのためにご尽力くださっているおかげだと、心より感謝申し上げます。

私たちは、野球の技術だけでなく、野球ができるのは多くの方々の支えがあってこそあることを子どもたちに伝え、感謝の心を育むことを大切にしています。子どもたちが中学・高校・社会人となっても野球を愛し続け、将来は学童野球を支える側として恩返ししてくれることを願っております。これからも、野球を通じて技術と人間性の両面で成長できるチームづくりに努めてまいります。

年	監督	主将	選手
2025	佐藤大樹	野村咲斗	21名
2024	佐藤大樹	宮崇太	33名
2023	佐藤大樹	梅岡奏丞	23名
2022	佐藤大樹	高田聖大	23名
2021	佐藤大樹	吉田翔一朗	14名
2020	佐藤大樹	塙士湊斗	19名
2019	増田和幹	戸田慶星	17名
2018	増田和幹	中井英吾	22名
2017	増田和幹	前川俊太	25名
2016	増田和幹	牧野麟太郎	20名
2015	増田和幹	浦夕恩	20名
2014	増田和幹	中井朝陽	17名
2013	増田和幹	若宮理子	19名
2012	増田和幹	熊田健成	19名
2011	増田和幹	宮崎詠介	19名
2010	増田和幹	村山海里	22名
2009	宮田正紀	和田悠希	24名
2008	石動正浩	熊田陽成	31名
2007	斎藤浩志	百万大貴	22名
2006	斎藤浩志	千田一紘	27名
2005	斎藤浩志	北村翔太	28名
2004	斎藤浩志	太村耕介	28名
2003	斎藤浩志	熊田和成	27名
2002	中村幸広	今井智也	32名
2001	中村幸広	斎藤安元	35名
2000	中村幸広	山下理貴	30名
1999	宮田正紀	紅谷真一	22名
1998	宮田正紀	山下泰貴	21名
1997	宮田正紀	宮田有貴	26名
1996	宮田正紀	武田英志	15名
1995	大家晴介	大家辰紀	9名
1994	大家晴介	高畠康	10名
1993	堀田浩貴	米林正太郎	19名
1992	長谷川満男	長谷川武志	20名
1991	長谷川満男	大野哲	21名



兼六レッドソックス



金沢市学童野球連盟創立 50 周年、誠におめでとうございます。

兼六レッドソックスは、味噌蔵シャークスと材木ラスカルズが合併してから、今年で 10 周年を迎えるました。

近年、野球人口が減り続けている中、兼六レッドソックスも選手集めには苦労しています。それでもこの地域で、野球がしたい子どもたちの居場所となるため、選手、指導者、保護者が協力し合いながら日々活動しています。

この 10 年間での成績は、昨年の第 28 回フレッシュジュニア秋季大会で第 3 位となった事です。この成績は兼六レッドソックスが創部してから、一番輝かしい成績です。大会で試合に勝ち続ける事の難しさや、試合に競り勝つ喜びを選手、指導者、保護者で共有する事ができました。試合に勝って嬉し涙を流す事ができたこの経験は、チームの良き思い出となりました。

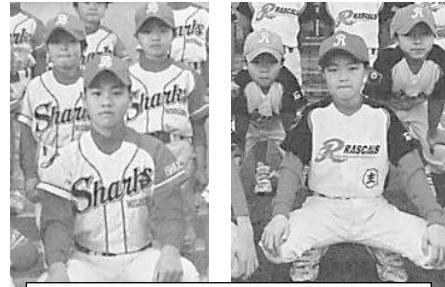
これからも、子どもたちが野球を大好きになれるように、全力で取り組める活動をしていきます。

初出場 2015 年

・兼六レッドソックス(2015)
*材木ラスカルズと味噌蔵シャークス
が合併してチーム結成

主な戦績

*材木ラスカルズ、味噌蔵シャークス
として記録有(別ページ参照)



合併前チームのユニフォーム

年	監督	主将	選手
2025	大島英嗣	高田銀仁朗	12 名
2024	大島英嗣	織田源	12 名
2023	大島英嗣	笠嶋さくら	13 名
2022	辰巳浩樹	中村汰聞	10 名
2021	辰巳浩樹	登美快音	14 名
2020	辰巳浩樹	石黒流輝	13 名
2019	辰巳浩樹	宮川航輔	15 名
2018	辰巳浩樹	大島海大	11 名
2017	栄川充	宮川佑輝	12 名
2016	栄川充	藤田勇雅	20 名
2015	栄川充	内田雅都	28 名

〈味噌蔵シャークス〉

年	監督	主将	選手
2014	辰巳浩樹	木越達也	16 名
2013	辰巳浩樹	谷保翔士	17 名
2012	辰巳浩樹	木越真里	22 名
2011	辰巳浩樹	河辺篤也	22 名
2010	辰巳浩樹	南和希	22 名
2009	奥田孝行	奥田峻也	22 名
2008	奥田孝行	谷保遙望	22 名
2007	安江昭一	谷保耀風	24 名
2006	旭信夫	藏谷朋也	21 名
2005	旭信夫	越中快人	23 名

〈材木ラスカルズ〉

年	監督	主将	選手
2014	栄川充	藤田響	17 名
2013	栄川充	野坂知暉	18 名
2012	栄川充	大島陸哉	23 名
2011	栄川充	栄川嶺夢	25 名
2010	栄川充	大桑哲	20 名
2009	栄川充	福田楨	24 名
2008	栄川充	赤芝四郎	22 名
2007	遠藤宗五郎	宮野友輔	25 名
2006	遠藤宗五郎	石野夏紀	23 名
2005	遠藤宗五郎	高木大輔	29 名



犀川ビクトリー



初出場 1985 年

- ・犀川フィズ(1985)
- ・犀川ビクトリー(1990)

主な戦績

- ・ブロック大会 優勝 2 準優勝 5
- ・春季大会 準優勝 1
- ・秋季大会 準優勝 1
- ・SJ 大会 準優勝 1
- ・FJ 春季大会 準優勝 2
- ・FJ 秋季大会 準優勝 1
- ・県大会出場 2 回



過去のユニフォーム

金沢市学童野球連盟発足50周年おめでとうございます。長きにわたり、子供たちの健全な育成と野球を通じた交流の場を提供し、地域のスポーツ振興に大きく貢献されてきたことに深い敬意を表します。

私たち犀川ビクトリーは、昨年度、創部40周年という節目を迎えることができました。これも金沢市学童野球連盟の皆様をはじめ、地域の皆様にご支援とご愛顧を賜り、誠にありがとうございました。

私たちの学童野球チーム「犀川ビクトリー」は犀川校下、湯涌校下の子供たちで構成されております。

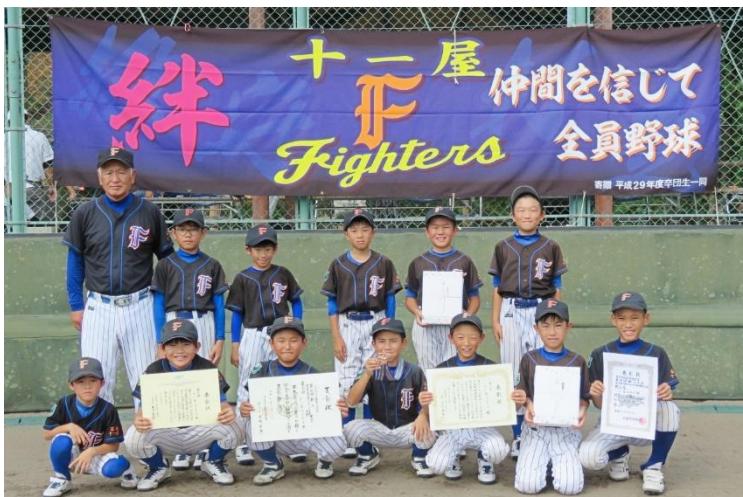
少子高齢化に歯止めがからず、私たちの活動地域でも生徒数は減少をたどる一方で、また、子供たちのスポーツを取り巻く環境も多種多様なスポーツを選べる時代になっております。

そのような時代の中、私たちのチームも厳しいチーム運営を強いられておりますが、宮村監督指導の下、「一球に泣き一球に笑う…」、「一球の重みを」をスローガンに、子供たちの自律心を伸ばし、協調性を養いながら健全な子供の育成のために、今日まで活動してきました。

思えばここまで続けられてこられたのも、現監督をはじめ、長年にわたり、地域の皆様のご理解とご協力、また、歴代に渡りビクトリーを支えてくださった OB の多大なるご支援、ご尽力を頂いているお陰で野球ができることに感謝し、チーム一丸となり勝利を目指します。

年	監督	主将	選手
2025	宮村信一	谷内寛	13名
2024	宮村信一	寺田誠司	19名
2023	宮村信一	南出透哉	14名
2022	宮村信一	石崎煌大	16名
2021	宮村信一	奥村次元	16名
2020	宮村信一	粟森玄	15名
2019	宮村信一	南出遙斗	10名
2018	宮村信一	村崎啓太	10名
2017	宮村信一	徳光諒真	15名
2016	宮村信一	日下大誠	14名
2015	宮村信一	山川真輝	16名
2014	宮村信一	南祥良	15名
2013	宮村信一	川田龍成	18名
2012	宮村信一	稻垣ゆう	21名
2011	宮村信一	高野晴輝	20名
2010	宮村信一	橋場泰一	22名
2009	宮村信一	和田貴司	21名
2008	宮村信一	宮村樹	23名
2007	宮村信一	城力健人	28名
2006	川上利之	小孫一樹	29名
2005	川上利之	橋本大輝	29名
2004	川上利之	本屋大吾	27名
2003	川上利之	南勇輔	26名
2002	上田進	宮田一男	30名
2001	上田進	中村勝利	32名
2000	上田進	黒川龍一	30名
1999	加藤吉信	望月輝	32名
1998	上田進	高村政克	35名
1997	上田進	高村政克	20名
1996	上田進	道心雅幸	27名
1995	上田進	道心雅幸	13名
1994	木村徳二	稻葉徹	21名
1993	木村徳二	山森秀樹	18名
1992	工藤徳藏	石畠圭一	13名
1991	上田進	工藤優史	16名

十一屋ファイターズ



初出場 1979 年

・十一屋ファイターズ(1979)

主な戦績

・ブロック大会	準優勝 4
・夏季大会	優勝 1 準優勝 3
・秋季大会	準優勝 2
・新人大会	優勝 2 準優勝 1
・県大会出場	16 回



過去のユニフォーム

金沢市学童野球連盟が創立 50 周年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

十一屋ファイターズも、来年創立 50 周年という大きな節目を迎えることとなりました。こうして長きにわたり多くの子どもたちが白球を追い、野球を通して仲間とともに成長できたのは、ひとえに連盟の皆様をはじめ、役員の方々、審判員ならびに関係者の皆様のご尽力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

近年、子どもの人数が減少傾向であることを受け、チーム内で運営に知恵を絞るような状況も多々ありますが、集まった子どもたちは、仲間を大切にしながら前向きに努力し、勝利を目指して日々練習に励んでおります。

一生懸命に頑張る姿、勝利したときのはじけるような笑顔、負けた時の悔し涙、お互いを信頼し共に支えあう仲間は、いつの時代も変わらないものであり、そしていつまでも大切にしていきたいものでもあります。

十一屋ファイターズは、これからも「5 つのちかい」の精神のもと、選手・指導者・保護者が三位一体となって協力し、野球の楽しさを次の世代へとつなげていきたいと思っております。

最後になりましたが、金沢市学童野球連盟のさらなるご発展と、運営に携わる皆様のご健勝を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

年	監督	主将	選手
2025	挾間忠広	渡邊哲也	15 名
2024	挾間忠広	小石玲来	11 名
2023	挾間忠広	村上岳	18 名
2022	挾間忠広	横山綱玖	21 名
2021	挾間忠広	宮崎駿汰	13 名
2020	挾間忠広	渡邊久則	14 名
2019	挾間忠広	張石蒼太	15 名
2018	井上隆志	西明日香	19 名
2017	時女哲也	中西要晴	17 名
2016	時女哲也	西亮太	12 名
2015	池田信	古村岳琉	12 名
2014	池田信	佐藤憲治	17 名
2013	池田信	中西恒晴	18 名
2012	池田信	岡本恭平	23 名
2011	池田信	坂上皓亮	21 名
2010	池田信	宮川昌奈	20 名
2009	池田信	宮川唯斗	25 名
2008	池田信	北川航大	25 名
2007	挾間忠広	北村拓己	28 名
2006	挾間忠広	二木健太	22 名
2005	挾間忠広	北村祥治	21 名
2004	挾間忠広	勝二耕陽	22 名
2003	挾間忠広	中島徹士	24 名
2002	挾間忠広	谷内智一	29 名
2001	挾間忠広	小浦雄摩	30 名
2000	挾間忠広	多加健太郎	24 名
1999	挾間忠広	田中皓一郎	17 名
1998	挾間忠広	小林正幸	14 名
1997	挾間忠広	北野猛	14 名
1996	徳田幸夫	浅地勇吾	15 名
1995	徳田幸夫	浦孝宏	14 名
1994	徳田幸夫	高来彰	15 名
1993	徳田幸夫	津梅雄也	11 名
1992	徳田幸夫	武田健治	15 名
1991	徳田幸夫	太田穂	15 名

田上ライナーズ

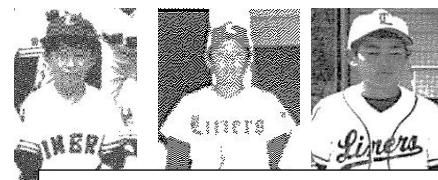


初出場 1982 年

・田上ライナーズ(1982)

主な戦績

- ・ブロック大会 優勝 8 準優勝 6
- ・春季大会 優勝 2 準優勝 3
- ・夏季大会 優勝 2 準優勝 7
- ・秋季大会 優勝 5 準優勝 2
- ・SJ 大会 優勝 3 準優勝 1
- ・新人大会 優勝 2 準優勝 3
- ・FJ 春季大会 準優勝 6
- ・FJ 秋季大会 優勝 3 準優勝 8
- ・県大会出場 33 回
- ・全国大会出場 2010



過去のユニフォーム

金沢市学童野球連盟創立 50 周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

今日という節目の年を迎えられましたのも、連盟関係者の皆様をはじめ、これまで学童野球の発展にご尽力された先輩方々の献身的な努力の賜物であり、心から敬意を表します。

田上ライナーズは本年で創立 45 周年を迎えました。これまで多くの卒団生がプロ野球選手をはじめ、甲子園球児、中学・高校・社会人野球、さらには草野球など、それぞれの舞台で野球を続けて活躍しており、大変誇らしく思っております。

金沢市学童野球連盟創立 50 周年という節目の年に、田上ライナーズは金沢市大会において三季連続で決勝に進出し、秋季大会では優勝を果たすことができました。さらに県大会では春季ベスト 4、夏季優勝と、飛躍の一年となりました。これも日頃より温かく見守ってくださる連盟の皆様、地域の皆様、そして保護者の皆様のご支援のおかげであり、心より感謝申し上げます。

今後も子どもたちが野球を通じて「礼儀」「感謝」「諦めない気持ち」を学び、仲間と共に成長しながら地域に愛されるチームづくりを目指してまいります。

結びに、金沢市学童野球連盟のさらなるご発展と、関係各位のご健勝をお祈り申し上げます。

田上ライナーズ 監督 平村健太郎

年	監督	主将	選手
2025	平村健太郎	宇田翔太朗	26 名
2024	平村健太郎	森開風太	26 名
2023	寺田和儀	中本悠貴	28 名
2022	寺田和儀	岡野大望	28 名
2021	寺田和儀	柴田隆之介	32 名
2020	寺田和儀	寺田琉希空	35 名
2019	寺田和儀	柴田麟太郎	28 名
2018	寺田和儀	佐藤大晟	21 名
2017	北戸丈晴	山本翔士	19 名
2016	北戸丈晴	名船祐矢	25 名
2015	田村誠	中村圭伸	25 名
2014	田村誠	川北悠雅	24 名
2013	田村誠	中村光輝	26 名
2012	田村誠	茶木遼太	31 名
2011	田村誠	水本樹	27 名
2010	田村誠	木村紘二郎	33 名
2009	田村誠	梁瀬彪慶	34 名
2008	田村誠	宮西開	33 名
2007	田村誠	針本勇仁	33 名
2006	田村誠	田村慶太	34 名
2005	七山兼一	大島昂史	30 名
2004	七山兼一	荒尾奏太	24 名
2003	七山兼一	中野隼	25 名
2002	七山兼一	千田一樹	28 名
2001	七山兼一	東銀士	33 名
2000	田中修三	中出悠貴	27 名
1999	田中修三	広沢正幸	25 名
1998	田中修三	宮口宏輝	22 名
1997	田中修三	岡本邦裕	20 名
1996	好井辰夫	片山崇	15 名
1995	好井辰夫	谷内克弥	17 名
1994	好井辰夫	北啓佑	22 名
1993	好井辰夫	七山光辰	18 名
1992	好井辰夫	今村亮輔	17 名
1991	好井辰夫	木野敏宏	25 名

中央スターズ



金沢市学童野球連盟が創立 50 周年という大きな節目を迎えること、心よりお祝い申し上げます。

この半世紀にわたり、金沢の子どもたちが野球を通じて心身を鍛え、仲間と共に夢を追い続けてこられたのは、指導者の皆様の熱意と、支えてこられた保護者・地域の皆様の温かいご協力の賜物であります。ここに心からの敬意と感謝を申し上げます。

野球は、単なるスポーツにとどまらず、礼儀や思いやり、努力を積み重ねる大切さを教えてくれます。試合での勝敗はもちろん、仲間と声をかけ合い、励まし合う経験の一つひとつが、子どもたちの成長に確かな力を与えていると感じます。

そして、グラウンドで懸命に白球を追う姿は、地域の方々に元気と感動を届け、世代を超えた絆を育んできました。

これまで連盟を支えてこられた先輩方に深く敬意を表するとともに、これからも次の 50 年に向けて、子どもたちがのびのびと野球を楽しめる環境づくりに、当事者の一人として微力ながら努めてまいりたいと思います。

我々、中央スターズも 2 年後に 50 期生が最上級生となります。これまでの歴史を築いてこられた多くの方々への感謝を胸に、私たちも次の 50 年に向けて、子どもたちがのびのびと野球を楽しめる環境づくりに力を尽くしてまいります。

金沢市学童野球連盟のさらなる発展と、すべての関係者の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。



初出場 1978 年

- ・長土壙スターズ(1978)
- ・中央スターズ(1987)

主な戦績

- ・ブロック大会 優勝 6 準優勝 5
- ・春季大会 優勝 1 準優勝 1
- ・夏季大会 準優勝 1
- ・秋季大会 優勝 1
- ・新人大会 優勝 1 準優勝 1
- ・FJ 秋季大会 準優勝 1
- ・県大会出場 10 回
- ・全国大会出場 1983



年	監督	主将	選手
2025	山本智一	村井清伸	14 名
2024	山本智一	元晴延	12 名
2023	山本智一	原田利音	11 名
2022	山本智一	山本一飛	18 名
2021	山本智一	幸野展己	15 名
2020	山本智一	橋本瑛太	23 名
2019	山本智一	山本健文	24 名
2018	山本智一	谷村玲空	21 名
2017	山本智一	幸野了士	16 名
2016	山本智一	山崎晃	13 名
2015	山本智一	幸野晃大	13 名
2014	山本智一	大澤慎司	16 名
2013	山本智一	佐藤弘基	15 名
2012	山本智一	浦田晃佑	13 名
2011	山本智一	大洞魁斗	17 名
2010	山本智一	藤井勇輔	30 名
2009	山本智一	亀田涼真	24 名
2008	山本智一	高橋泰地	24 名
2007	山本智一	尾崎屋良祐	24 名
2006	山本智一	吉田翼	21 名
2005	上田弘	忠村真樹	22 名
2004	上田弘	仲冠治	20 名
2003	上田弘	山田康平	23 名
2002	上田弘	専晃典	22 名
2001	上田弘	松原哲平	30 名
2000	山本智一	川端健太郎	25 名
1999	山本智一	年澄良	30 名
1998	石尾光彦	吉本真澄	36 名
1997	石尾光彦	高橋潔	19 名
1996	武藤廣行	滝川幸広	20 名
1995	武藤廣行	高橋純也	13 名
1994	武藤廣行	英良洋	13 名
1993	武藤廣行	小室範幸	14 名
1992	武藤廣行	近本聰史	18 名
1991	武藤廣行	川口洋司	21 名

長坂台クラブ



初出場 1982年

・長坂台クラブ(1982)

主な戦績

- ・ブロック大会 優勝 1 準優勝 10
- ・夏季大会 優勝 1
- ・秋季大会 準優勝 1
- ・SJ 大会 優勝 1
- ・FJ 春季大会 優勝 1
- ・FJ 秋季大会 優勝 1 準優勝 1
- ・県大会出場 2回



この度は金沢市学童野球連盟の創立50周年おめでとうございます。

50周年を迎えるにあたり、今まで連盟の運営にご尽力された関係各位に対し深く感謝申し上げます。

長坂台クラブは昭和1981年に設立され、金沢市立長坂台小学校並びに近隣学区の学童を中心に活動している学童少年野球チームで、今年2025年で創立45年目を迎えます。

長坂台クラブでの活動を通して、「スポーツマンシップ」、「フェアプレー」、「礼儀」を学び、試合に勝ったときの喜びや、負けたときの悔しさを分かちあえる「友情」そして「思いやりの心」を子供たちが学ぶ場になれば幸いと考えています。

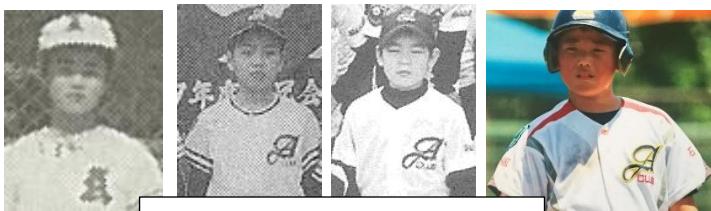
近年では甲子園に出場した卒団生から直接指導を受けるなど、在団生が目をキラキラさせて野球に取り組めるような環境づくりに努めています。

現在の部員数は18名で、決して多くはないですが、野球人口の減少の影響を受けつつも、野球が楽しいと思える環境をつくり、中学以降も続けたい、と希望する子供が一人でも多くなるようにクラブ一同取り組んでいきたいと考えています。

この先、60年、70年と金沢市学童野球連盟の活動が継続され、その中に長坂台クラブが寄与していることを期待して次世代にバトンを渡したいと思います。

年	監督	主将	選手
2025	亀本拓志	平原航成	16名
2024	東寛也	東瑞祈	12名
2023	竹村裕	織田泰輔	13名
2022	竹村裕	高田琴羽	12名
2021	竹村裕	村田透麻	11名
2020	竹村裕	佐藤純	11名
2019	竹村裕	由雄一恭	17名
2018	竹村裕	本丹拓真	19名
2017	竹村裕	安藤陽	19名
2016	竹村裕	高山弘基	23名
2015	竹村裕	寺下湖基	25名
2014	竹村裕	廣木優哉	19名
2013	高田成智	高田壯輔	22名
2012	高田成智	鍛治賢吾	21名
2011	品野祐一郎	稻積鴻志朗	20名
2010	品野祐一郎	谷内勇喜	26名
2009	品野祐一郎	河原直希	25名
2008	品野祐一郎	新居大地	33名
2007	品野祐一郎	谷口潤	30名
2006	田辺孝之	宮田智弘	36名
2005	田辺孝之	品野陽亮	30名
2004	赤峰福海	山本崇	24名
2003	赤峰福海	東野堅志郎	21名
2002	早瀬正行	堅田良祐子	20名
2001	早瀬正行	石川修平	25名
2000	早瀬正行	岩見昭典	16名
1999	高田修吾	長井政憲	19名
1998	高田修吾	橋幸希	19名
1997	高田修吾	和田修	21名
1996	高田修吾	山岸喬太	21名
1995	高田修吾	大森俊之	18名
1994	千田幸治	奥村崇道	15名
1993	高村幹男	坂井孝英	10名
1992	高村幹男	山岸隆一	18名
1991	高村幹男	高木裕也	25名

栗崎クラブ



過去のユニフォーム

金沢市学童野球連盟創立 50 周年おめでとうございます。

当クラブは、昭和 52 年に「栗崎俱楽部」として設立されました。以来 48 年間、小規模な校区でありながらも地域の方々に支えていただきながらここまで歩んできました。

昨今の少子化問題や野球人気の低迷が叫ばれるなか、私たち栗崎クラブも例外なく部員数の減少という課題に直面し、チーム存続の危機に瀕しながらも、様々な取り組みにより部員を確保し現在に至っています。

私たちは「心をひとつに全力野球！」をチームのスローガンに掲げ、日々練習に励んでいます。選手一人ひとりの個性を尊重しながら、技術だけでなく、野球を通じて人間性の向上を図ることを大切にしています。グラウンドには、勝利を目指す真剣な眼差しとともに、野球ができる喜びを噛みしめる選手たちの笑顔があふれています。このチームが、子どもたちの成長と、地域の活性化に貢献できるよう更なる発展を目指します。

最後になりますが、当クラブも微力ではございますが、金沢市学童野球連盟の益々の発展と子どもたちの健全育成に寄与してまいる所存です。

初出場 1977 年

・栗崎俱楽部(1977)

・栗崎クラブ(1991)

主な戦績

- ・ブロック大会 優勝 4 準優勝 4
- ・春季大会 準優勝 1
- ・夏季大会 優勝 2 準優勝 1
- ・秋季大会 準優勝 1
- ・新人大会 準優勝 2
- ・FJ 春季大会 優勝 1 準優勝 1
- ・FJ 秋季大会 準優勝 2
- ・県大会出場 8 回



年	監督	主将	選手
2025	山田徳人	今泉瑠果	25 名
2024	山田徳人	林夢華	17 名
2023	山田徳人	今泉聖成	21 名
2022	山田徳人	今泉聖成	14 名
2021	山田徳人	林虎生	10 名
2020	金江一成	木村大希	11 名
2019	金江一成	福井陽向太	14 名
2018	金江一成	河津樹生	13 名
2017	金江一成	中村吉希	16 名
2016	金江一成	高井風河	14 名
2015	金江一成	山口大	18 名
2014	金江一成	寺下佳孝	17 名
2013	金江一成	知田拓斗	19 名
2012	金江一成	水岡大齊	17 名
2011	金江一成	岩永渉	26 名
2010	金江一成	岡川拓斗	26 名
2009	金江一成	朝生玲央	21 名
2008	金江一成	西川諒	27 名
2007	金江一成	大谷翔太	23 名
2006	金江一成	竹村龍寿	20 名
2005	金江一成	中村公亮	23 名
2004	金江一成	西村翼	16 名
2003	金江一成	木下皓介	18 名
2002	金江一成	虎谷駿一	16 名
2001	金江一成	中橋裕也	11 名
2000	金江一成	渡辺研佑	17 名
1999	金江一成	佐々木亨祐	23 名
1998	金江一成	日尾利彦	15 名
1997	金江一成	永谷剛士	25 名
1996	金江一成	尾山隆俊	19 名
1995	金江一成	山本貴志	20 名
1994	金江一成	中村喜親	12 名
1993	金江一成	佐野健一	15 名
1992	西沢寛一	小坂正裕	27 名
1991	西沢寛一	東将平	25 名

金沢西ベースボールクラブ



初出場 2020 年

・金沢西ベースボールクラブ(2020)
 *大野クラブと金石ブルースターズ
 が合流してチーム結成

主な戦績

*大野クラブ、金石ブルースターズ
 として記録有(別ページ参照)



合併前チームのユニフォーム

金沢市学童野球連盟設立50周年おめでとうございます。

当クラブは2020年春に大野クラブと金石ブルースターズが合流して誕生しました。大野と金石、古くから関係・絆の強い地域同士で、ともに結成から40年以上の歴史を持つチームの統合により、結成からわずか6年目ではありますが、監督を筆頭とした厳しくも明るく楽しい指導者と、強力なチームワークでサポートする保護者の方々、子供たちは浜どころの勢いの良さとねばりで総合的な力では引けを取らない、理想的なチームとなっています。

活動は毎週水木土日曜日に金石町小学校と大野町小学校の施設を使用して練習を行っており、最近では 2024 年西部地区ジュニア育成リーグでの優勝や 2025 年金沢西ライオングズクラブ杯での優勝などの成績をおさめ、今後の活躍に向けて更に士気が高揚し、20 名の選手が日々の練習に打ち込んでいます。

今後も金沢市学童野球連盟をはじめ連盟加盟のチームの皆様方、並びに金石大野の地域の方々にご教授いただきながら、学童野球・児童の健全育成に寄与できるように、野球と言うスポーツの良さを広げて行けるように、チーム一丸となって努力をしていきたいと思いますので、引き続きのご指導を賜りますようお願いいたします。

金沢西ベースボールクラブ 代表 中邑 康弘

年	監督	主将	選手
2025	森下利幸	柳澤陽太	20 名
2024	森下利幸	連暖人	16 名
2023	森下利幸	橋本創平	11 名
2022	森下利幸	岡部桜侑	14 名
2021	森下利幸	小笠原豊	12 名
2020	森下利幸	阿久津亮介	11 名

〈大野クラブ〉

年	監督	主将	選手
2019	森下利幸	若林幸生	20 名
2018	森下利幸	三輪龍脩	10 名
2017	森下利幸	栗原諒門	14 名
2016	森下利幸	森下空翔	13 名
2015	木嬰公志	坂本楓葵	14 名
2014	木嬰公志	栗原日向	19 名
2013	木嬰公志	能島慶	16 名
2012	木嬰公志	野澤僚二	15 名
2011	木嬰公志	森下陸	20 名
2010	木嬰公志	野澤拓弥	20 名

〈金石ブルースターズ〉

年	監督	主将	選手
2018	網繁雄	阿久津佑斗	14 名
2017	網繁雄	鷹尾汐音	14 名
2016	網繁雄	笹田一輝	15 名
2015	森川典彦	松下昂耀	15 名
2014	森川典彦	若狭春生	19 名
2013	松岡勝成	西谷涼輔	19 名
2012	松岡勝成	西村透哉	21 名
2011	久岡貴志	久岡桂吾	24 名
2010	久岡貴志	若狭友哉	24 名

木曳野ブレーブス



金沢市学童野球連盟 50 周年を心からお祝い申し上げます。
子供達に野球を通じた成長と笑顔の場を 50 年にわたり提供してくださったことに、深い感謝と敬意を表します。

私たち木曳野ブレーブスも、連盟の一員としてこの素晴らしい環境で野球に打ち込むことができる喜びをかみしめながら、日々活動に励んでいます。

木曳野ブレーブスは 2006 年に創設された学童野球チームです。地域の子供達が野球を通じて健やかに成長し、仲間との絆を深めることを目的に活動しています。日々の練習では、一人ひとりが夢に向かって白球を追いかけ、汗と笑顔あふれる時間を積み重ねています。

技術の向上だけではなく、「礼儀」「挨拶」「感謝の気持ち」を大切にし、野球を通して人として成長することを目標に、仲間を思いやる心、支えてくれる人への感謝の気持ちを忘れず、全員が真剣に野球に取り組んでいます。

今年は 6 年ぶりに県大会へ出場し、全国大会出場を目指して全員が一丸となって挑みました。大会当日は多くの OB が応援に駆けつけ、子供達の背中を力強く推してくれました。

惜しくも全国の舞台には届きませんでしたが、仲間と共に流した涙と笑顔はかけがえのない宝物となりました。

また、金沢市と東京都板橋区の交流事業に参加させて頂き、子供達は多くの思い出と貴重な経験を積む事ができました。異なる地域の選手達との交流は、野球の素晴らしさを改めて実感する機会となりました。

来年、木曳野ブレーブスは創設 20 周年を迎えます。これまで温かく支えてくださった金沢市学童野球連盟をはじめ、地域の皆様への感謝を胸に、これからも、全国大会出場という大きな目標に向かって、全力で挑戦し続けます。

木曳野ブレーブス 代表 木下敏幸



初出場 2007 年

・木曳野ブレーブス(2007)

主な戦績

- ・ブロック大会 優勝 3 準優勝 6
- ・春季大会 優勝 1 準優勝 1
- ・夏季大会 準優勝 1
- ・秋季大会 準優勝 1
- ・新人大会 優勝 1
- ・県大会出場 9 回



過去のユニフォーム

年	監督	主将	選手
2025	松田敏幸	宮川明輝	34 名
2024	松田敏幸	西坂悠汰	22 名
2023	松田敏幸	荒木颯駕	16 名
2022	松田敏幸	林勇真	17 名
2021	松田敏幸	中田大貴	22 名
2020	松田敏幸	泉湊太	22 名
2019	松田敏幸	高橋弘季	28 名
2018	松田敏幸	小笠輝星	23 名
2017	松田敏幸	山崎康太郎	22 名
2016	松田敏幸	屋名池亜門	21 名
2015	松田敏幸	若狭翔	23 名
2014	松田敏幸	堂端大和	20 名
2013	松田敏幸	山田琉貴	26 名
2012	松田敏幸	中野峻	24 名
2011	松田敏幸	木倉朋輝	27 名
2010	松田敏幸	島田健次	30 名
2009	松田敏幸	木下敦弥	26 名
2008	松田敏幸	松田達徳	24 名
2007	松田敏幸	戸水敦也	25 名



鞍月ブラザーズ



このたび、金沢市学童野球連盟が創立五十周年という輝かしい節目を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

あわせて、長年にわたり連盟の運営ならびに学童野球の振興・発展に多大なるご尽力を賜りました関係各位に、深甚なる敬意と感謝の意を表する次第でございます。

私ども「鞍月ブラザーズ」は、1978 年に「鞍月ムーン・サドル」として創設され、1990 年に現名称へと改称いたしました。以来、仲間を兄弟のように思いやる心を大切にし、互いに励まし合いながら、最後まで諦めず粘り強く戦う姿勢を軸に、活動を続けてまいりました。

当チームは、貴連盟が掲げられる「五つのちかい」の精神を日々の指導方針の礎とし、礼儀を重んじ、和の心を育み、自主性を尊重しながら、健全な身体と豊かな精神の育成に努めています。

単に野球技術の習得や勝利を追い求めるのではなく、子どもたちが将来社会において逞しく生き抜く力を養うべく、「自ら考える力」や「自己肯定感」の醸成を重視しております。

また、日々の活動を通して、指導者や保護者の温かい支え、そして地域の皆様の深いご理解とご協力によってチームが成り立っているということを、子どもたちが自らの実感として学び、やがて社会に貢献できる人間へと成長していくことを心より願っております。

今後とも、「子どもたちのための野球」という原点を忘れることなく、貴連盟と手を携えながら、学童野球のさらなる飛躍と発展に寄与してまいる所存でございます。

結びに、金沢市学童野球連盟のますますのご隆盛と、関係者の皆様のご健勝、ご多幸を心よりお祈り申し上げます。



初出場 1978 年

- ・鞍月ムーン・サドル(1978)
- ・鞍月ブラザーズ(1990)

主な戦績

- ・ブロック大会 優勝 6 準優勝 2
- ・春季大会 優勝 1 準優勝 2
- ・夏季大会 優勝 1 準優勝 1
- ・秋季大会 準優勝 1
- ・SJ 大会 優勝 1 準優勝 1
- ・新人大会 優勝 1 準優勝 1
- ・FJ 春季大会 優勝 3
- ・FJ 秋季大会 準優勝 3
- ・県大会出場 10 回
- ・全国大会出場 2015



過去のユニフォーム

年	監督	主将	選手
2025	松田拓矢	源野蓮	29 名
2024	松田拓矢	西上碧真	23 名
2023	松田拓矢	空本孝太郎	16 名
2022	津田訓	荒木大晟	14 名
2021	津田訓	奥田慶大	17 名
2020	津田訓	俵瑠翼	18 名
2019	下平晋太郎	下平蓮斗	21 名
2018	下平晋太郎	中田都希	17 名
2017	小林和夫	津田彗吾	18 名
2016	小林和夫	中田都大	19 名
2015	小林和夫	中谷大翔	27 名
2014	小林和夫	亀井康生	30 名
2013	小林和夫	猪田美羽	27 名
2012	中野庸雄	岩崎航平	37 名
2011	中野庸雄	海口碧大	39 名
2010	中野庸雄	亀井雄二	43 名
2009	吉田正治	長幹太	38 名
2008	吉田正治	今村春輝	38 名
2007	吉田正治	亀井悠平	31 名
2006	吉田正治	水戸智大	32 名
2005	吉田正治	出仙秀吉	20 名
2004	吉田正治	川上慎介	23 名
2003	吉田正治	新森崇史	20 名
2002	吉田正治	宮野貴範	27 名
2001	吉田正治	佐竹将徳	23 名
2000	吉田正治	荒井博文	18 名
1999	吉田正治	北川陽介	23 名
1998	吉田正治	北川雄一朗	22 名
1997	吉田正治	春山司	19 名
1996	吉田正治	戸田渉	16 名
1995	吉田正治	中野浩二	20 名
1994	吉田正治	沙弥誠一	21 名
1993	吉田正治	安田武史	23 名
1992	吉田正治	久保田健一郎	22 名
1991	吉田正治	西川拓三	21 名

戸板ライオンズ



初出場 1978 年
 ・戸板クラブライオンズ(1978)
 ・戸板ライオンズ(1982)
 (初期は東部地区で登録)

主な戦績

- ・ブロック大会 優勝 3 準優勝 2
- ・春季大会 準優勝 2
- ・新人大会 優勝 2
- ・FJ 春季大会 準優勝 1
- ・県大会出場 2 回



過去のユニフォーム

戸板ライオンズは、金沢市学童野球連盟の設立から 2 年後に誕生した、48 年の歴史あるチームです。現在は、戸板小学校と西小学校に通う児童が在籍し、日々練習に励んでいます。

これまで全国大会への出場などの華々しい実績はありませんが、今年の新人大会では、実に 35 年ぶりとなる県大会出場を果たしました。これは、子どもたちの努力と指導者・保護者の支えによって成し遂げられた、大きな成果です。

近年では、公園でのキャッチボールすら制限されるなど、子どもたちが野球に取り組む環境は年々厳しさを増しています。さらに、練習や試合に伴う保護者の負担や、高額な用具の購入なども、野球離れの一因となっています。それでも、大谷翔平選手の活躍や WBC の盛り上がりに後押しされ、なんとか部員を確保しながら活動を続けています。

チームでは、保護者同士の助け合いのもと、子どもたちが野球の楽しさを実感できる環境づくりに力を注ぎ、またチームスローガン「感謝と和」をモットーに、野球ができることへの感謝の気持ちを忘れず、仲間とのチームワークや調和を大切にする姿勢を育んでいます。

これからも「感謝と和」の心を胸に、野球の魅力を次世代へと伝え、子どもたちの健やかな成長を支えるとともに、元気あふれるチームづくりを目指して活動を続けてまいります。

年	監督	主将	選手
2025	入江一将	水藤蒼介	21名
2024	入江一将	薄井寛大	28名
2023	入江一将	吉田桧琳	20名
2022	入江一将	坂本敢泰	19名
2021	入江一将	長瀬智斗	12名
2020	入江一将	丹保友佑	17名
2019	入江一将	桑原椋太朗	16名
2018	袖野貴敬	北野綸大	19名
2017	袖野貴敬	濱田佑大	16名
2016	袖野貴敬	浦島佳司	16名
2015	袖野貴敬	入江貴斗	24名
2014	袖野貴敬	宮園翔伍	26名
2013	袖野貴敬	薄井壮大	17名
2012	袖野貴敬	大井丈実	18名
2011	満田幸三	三池秀弥	13名
2010	日置雅仁	二木翔生	19名
2009	日置雅仁	三池克弥	25名
2008	日置雅仁	杉原季弥登	22名
2007	日置雅仁	三義恵介	25名
2006	日置雅仁	渡会輝	18名
2005	日置雅仁	西口佑太	19名
2004	日置雅仁	西倉泰志	28名
2003	日置雅仁	平山大地	31名
2002	日置雅仁	東琢人	31名
2001	日置雅仁	水上和彦	26名
2000	日置雅仁	山本耕平	23名
1999	日置雅仁	佐藤健二	24名
1998	日置雅仁	浅日良太	26名
1997	日置雅仁	中川琢也	21名
1996	浜本茂	金谷良太	17名
1995	浜本茂	今村恵太	22名
1994	浜本茂	三角哲也	19名
1993	浜本茂	比良俊晴	15名
1992	日置雅仁	日置和雄	18名
1991	日置雅仁	日置和雄	19名

長田町ペアーズ



初出場 1986 年

・長田町ペアーズ(1986)

*1988-1989 は登録なし

主な戦績

・ブロック大会	準優勝 4
・春季大会	準優勝 2
・夏季大会	準優勝 1
・秋季大会	準優勝 1
・SJ 大会	準優勝 1
・新人大会	準優勝 1
・FJ 秋季大会	準優勝 1
・県大会出場	10 回



過去のユニフォーム

金沢市学童野球連盟創立50周年おめでとうございます。

日頃より、子供たちの心身健全育成と、種々の大会運営等を支えてこられた関係者様に改めて敬意を表し、感謝申し上げます。

長田町ペアーズもお陰様で今年創立40周年を迎えることができました。これまでご支援いただきました多くの関係者の皆様に感謝申し上げます。

長田町ペアーズは部員数が少ない中、「挨拶」、「全力疾走」、「あきらめない心」「感謝」をチームモットーに日々練習に励んでおります。現在、チームの最大の課題は、野球をする子供を増やすことです。まずは、野球の楽しさをわかってもらい、野球というスポーツを通して、協調性、団結、礼儀などの社会性も学び、最終的には試合に勝つ喜びを1人でも多くの子供たちと分かち合いたいと思っております。

長田町ペアーズは、選手、指導者、保護者が三位一体となり力を合わせて活動をしています。40年という歴史を引き継ぎながら、より活気のあるチームを作りと、子供たちに夢と希望を与えられるチームでありたいと思っております。

今後も金沢市学童野球連盟の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

年	監督	主将	選手
2025	吉道秀行	碓井基生	11名
2024	吉道秀行	浦田翔平	15名
2023	吉道秀行	太原陽樹	14名
2022	吉道秀行	市川稜恭	18名
2021	吉道秀行	幸松諒真	16名
2020	吉道秀行	佐原和弥	19名
2019	吉道秀行	道本想	20名
2018	吉道秀行	谷口奏真	20名
2017	吉道秀行	押川輝紀	18名
2016	吉道秀行	鷗端潤之	20名
2015	吉道秀行	関絢斗	16名
2014	鷗端誠	清水祐一郎	14名
2013	橋爪徹	道本結	14名
2012	橋爪徹	中村友和	21名
2011	橋爪徹	小西祐輔	17名
2010	橋爪徹	中野滉之介	21名
2009	吉道秀行	中野淳之介	18名
2008	米村和彦	浜田拓斗	23名
2007	高澤克爾	杉本郁	22名
2006	赤嶺福海	塙谷真広	23名
2005	赤嶺福海	杉本悠	19名
2004	沢谷英毅	橋爪崇弘	20名
2003	宮本隆志	立道淳	20名
2002	宮本隆志	荒井智史	22名
2001	宮本隆志	徳田泰士	16名
2000	宮本隆志	伊藤智史	23名
1999	宮本隆志	林晶夫	23名
1998	宮本隆志	増永泰則	24名
1997	宮本隆志	吉田和斗	14名
1996	宮本隆志	片山渉	18名
1995	宮本隆志	鈴木建一	17名
1994	宮本隆志	実川聖一	24名
1993	宮本隆志	長谷川純	21名
1992	宮本隆志	東平雅樹	18名
1991	宮本隆志	平山拓郎	20名

BBCみどり



初出場 1977 年

- ・BBCみどり(1977)
- ・緑少年野球クラブ(1982)
- ・BBCみどり(2025)

主な戦績

- ・ブロック大会 優勝 5 準優勝 6
- ・春季大会 優勝 4
- ・夏季大会 優勝 2 準優勝 1
- ・秋季大会 優勝 4 準優勝 3
- ・FJ 春季大会 優勝 3 準優勝 1
- ・FJ 秋季大会 優勝 1
- ・県大会出場 24 回
- ・全国大会出場 1987、2002



過去のユニフォーム

金沢市学童野球連盟が創立50周年を迎えられますことを、心よりお祝い申し上げます。今まで半世紀の長きにわたり、連盟の発展と運営に尽力してこられた歴代関係者の皆様に敬意を表するとともに深く感謝いたします。

私たちBBCみどりは、1977年のチーム発足以後、1982年に「緑少年野球クラブ」へチーム名を変更し、2回の全国大会出場を果たすなど輝かしい歴史を刻んでまいりました。近年の女子選手の加入をきっかけにチーム名変更の機運が高まり、2025年に発足時の「BBCみどり」にチーム名を改め、現在に至っています。

最近では、何人もの当チームOBが、指導者、役員、保護者として再びチームに関わりを持ってくれており、非常に喜ばしく思うとともに、長い歴史と伝統の重みを感じています。また、グランド利用などにおける恵まれた環境は、緑小学校や二塚公民館をはじめ、地域の方々のご理解とご協力の賜物であり、感謝の気持ちでいっぱいです。

近年の少子化の影響等による部員数の減少に関しては、当チームも大変厳しい状況にあります。しかしながら、チームの歴史と伝統を守り、これからも地域の方々に愛されるチームを目指して、選手、指導者、保護者が一体となって、学童野球発展のため日々活動していきたいと思います。

年	監督	主将	選手
2025	村田一也	刀狩佑星	16名
2024	村田一也	刀狩佑星	13名
2023	村田一也	下村優斗	16名
2022	村田一也	刀狩陽太	15名
2021	村田一也	宮島康太	19名
2020	村田一也	疋田晴空	18名
2019	村田一也	宮下悠	23名
2018	村田一也	喜多優斗	19名
2017	村田一也	田島健惺	21名
2016	村田一也	北本望夢	19名
2015	松原達雄	小俣諒侑	21名
2014	松原達雄	村田健一郎	18名
2013	松原達雄	佐々木陸	26名
2012	松本隆明	田畠圭哉	32名
2011	松本隆明	米谷優弥	26名
2010	長谷川修	山本隼	21名
2009	長谷川修	長谷川徹	26名
2008	長谷川修	寺前達	32名
2007	長谷川修	中西匠	32名
2006	長谷川修	浜田一斗	27名
2005	池田優	光山泰広	30名
2004	池田優	大西淳也	19名
2003	池田優	佐々木駿	23名
2002	疋田智	池田健太郎	19名
2001	酒井芳雄	新井佑弥	25名
2000	酒井芳雄	西川洋平	23名
1999	酒井芳雄	松浦慎太朗	22名
1998	酒井芳雄	吉川昂佑	23名
1997	酒井芳雄	池村健吾	16名
1996	酒井芳雄	小山乃大	19名
1995	酒井芳雄	川口巨生	20名
1994	酒井芳雄	中西孝至	19名
1993	正宗豊勝	能口知行	14名
1992	正宗豊勝	中西敦史	12名
1991	正宗豊勝	鳩将人	18名

三和ファイターズ



初出場 1977 年

- ・上荒屋ファイターズ(1977)
- ・三和ファイターズ(1980)

主な戦績

- ・ブロック大会 優勝 13 準優勝 8
- ・春季大会 優勝 5 準優勝 2
- ・夏季大会 優勝 6 準優勝 4
- ・秋季大会 優勝 4
- ・SJ 大会 準優勝 2
- ・新人大会 優勝 6
- ・FJ 春季大会 優勝 1 準優勝 1
- ・FJ 秋季大会 優勝 4 準優勝 1
- ・県大会出場 34 回



過去のユニフォーム



このたび、金沢市学童野球連盟が結成 50 周年の節目を迎えられることを、心よりお祝い申し上げます。長きにわたり学童野球の発展にご尽力されてこられた関係者の皆様に、心より敬意と感謝を表します。

三和ファイターズは、昭和 52 年に「上荒屋ファイターズ」として発足し、金沢市立三和小学校開校の翌年である昭和 55 年に現名称に改名し、今日に至っています。この間、多くの少年少女が巣立ち、近年はファイターズ OB の子供たちが次々と入部し、歴史と伝統の重みを強く感じております。学童野球を通じて、明るく・正しく・たくましい健全な学童を育成すべく、地域に根差したスポーツ団体として、「三和」の名のもとに、選手・指導者・保護者が三位一体となって力を合わせ、活動を続けております。

私たち三和ファイターズも、来年で発足 50 周年を迎えます。部員数の減少は否めませんが、「ひとりはみんなのために、みんなはひとりのために」をスローガンに、感謝の気持ちを忘れず、最後まであきらめない全員野球で勝利を目指し、更なる飛躍を期しております。

年	監督	主将	選手
2025	平木淳史	北本貴大	17 名
2024	平木淳史	坂下結星	21 名
2023	平木淳史	北本悠太朗	17 名
2022	平木淳史	沖坪依吹	22 名
2021	平木淳史	篠木陽太	26 名
2020	平木淳史	松村優我	24 名
2019	平木淳史	明石隼輝	27 名
2018	室和寿	北川隆之介	24 名
2017	室和寿	松村拓武	23 名
2016	室和寿	中川雄斗	26 名
2015	室和寿	澤井海稀	22 名
2014	室和寿	押兼悠馬	25 名
2013	室和寿	有松和輝	26 名
2012	室和寿	小布施承太郎	32 名
2011	室和寿	坂元良行	38 名
2010	室和寿	山田航平	41 名
2009	室和寿	坂元秀明	38 名
2008	市村悟	作田社大	34 名
2007	市村悟	大日向賢翔	35 名
2006	市村悟	橋向晃良	36 名
2005	市村悟	北川浩貴	37 名
2004	市村悟	竹谷拓真	32 名
2003	市村悟	坂田光	32 名
2002	市村悟	木挽文生	32 名
2001	市村悟	永江正太郎	30 名
2000	市村悟	谷澤源士	33 名
1999	市村悟	竹井博紀	26 名
1998	市村悟	塙田哲也	33 名
1997	市村悟	清水孝佳	32 名
1996	市村悟	池田和也	34 名
1995	市村悟	池田拓也	27 名
1994	市村悟	大田尚人	22 名
1993	市村悟	橋本歩	23 名
1992	市村悟	米田哲也	20 名
1991	市村悟	小泉優樹	23 名

安原野球クラブ



初出場 1985 年
・安原学童野球クラブ(1985)

主な戦績

- | | |
|---------|-------|
| ・ブロック大会 | 準優勝 2 |
| ・新人大会 | 準優勝 1 |
| ・県大会出場 | 1 回 |



過去のユニフォーム

金沢市学童野球連盟が創立五十周年を迎えたことを、心より慶び申し上げます。この特別な節目を迎えられました事に際し、連盟に関わる皆様の努力と情熱のお陰と存じ、改めて敬意を表し、深く感謝申し上げます。

五十周年を迎えたことは、皆様の尽力を年々積み重ねたからこそであり、この歴史が未来へと繋がり、さらなる発展を遂げることを願っております。

私たち、安原野球クラブは、お陰様で昨年、創立四十周年を迎えることができました。これもひとえに連盟の皆様、諸先輩方のご指導、ご鞭撻を頂いた賜物でございます。

また、練習場所を提供して下さる小学校や地域の皆様のご理解、ご支援があつてこそ、続けて来られたと実感しております。これからも長きに渡って活動できるように、チーム一同、なお一層、気を引き締めている次第であります。

近年、少子化が進み、当チーム地域においても例外ではなく、厳しい状況にもあります。私たちは子供たちに野球の楽しさや仲間との絆、努力の大切さなどを育成し、心身の成長を手助けてきよう、日々活動を続けてまいります。

これからも地域に愛されるチームを目指し、連盟関係者の皆様と共に、学童野球のさらなる発展に力を尽くしていきたいと考えておる所存でございます。

最後に、金沢市学童野球連盟の益々のご発展を心よりお祈り申し上げますと共に、連盟皆様のご健康、ご多幸をご祈念致しまして、お祝いの言葉とします。

今後とも共に歩んでいけることを楽しみにしております。

年	監督	主将	選手
2025	下浦幹緒	西尾遼佑	18名
2024	下浦幹緒	下浦幹太	18名
2023	下浦幹緒	中林佑蓮	17名
2022	能西一	能西悠生	19名
2021	永吉正人	谷坊琉偉	14名
2020	永吉正人	永吉柊翔	16名
2019	永吉正人	山森紗代	10名
2018	中村崇之	中村陽	18名
2017	川田敏施	横道逸沙	12名
2016	川田敏施	堂端寿紀亞	16名
2015	吉藤裕彰	吉藤颯汰	16名
2014	山田啓一	舟田友也	17名
2013	山田啓一	梅木祐斗	19名
2012	川端裕	宮村宙	24名
2011	川端裕	太田健斗	19名
2010	川端裕	安廣大輝	18名
2009	川端裕	井畠利綺	21名
2008	川端裕	上田悠人	20名
2007	川端裕	青木大将	14名
2006	田中秀夫	茶谷知史	12名
2005	田中秀夫	引地大志	22名
2004	田中秀夫	荒川侑摩	30名
2003	田中秀夫	椿真貴	24名
2002	田中秀夫	中西涼太	23名
2001	田中秀夫	高畠拓也	19名
2000	田中秀夫	松尾彰太	15名
1999	田中秀夫	中田拓也	13名
1998	田中秀夫	田辺拓也	17名
1997	田中秀夫	吉田央	19名
1996	田中秀夫	北川清悟	23名
1995	田中秀夫	森田慎司	23名
1994	田中秀夫	月田秀一郎	18名
1993	田中秀夫	中林圭吾	12名
1992	田中秀夫	山本哲	12名
1991	田中秀夫	吉本英治	19名



扇台クラブ



初出場 1981 年

- ・扇台クラブ(1981)
- *光が丘ホークス、馬替ジュニアベースボールクラブ、額新ビックトリーが合併してチーム結成

主な戦績

- ・ブロック大会 優勝 5 準優勝 3
- ・春季大会 優勝 1 準優勝 1
- ・秋季大会 優勝 1 準優勝 2
- ・FJ 春季大会 優勝 1
- ・FJ 秋季大会 優勝 1
- ・県大会出場 13 回



過去のユニフォーム

昭和 55 年に創立された扇台クラブは、今年で 45 周年を迎える歴史ある学童野球チームです。これまで多くの子どもたちがこのグラウンドで汗を流し、野球を通して仲間と共に成長してきました。OB の中には、夢を追い続けて甲子園の舞台に立った選手もおり、地域の誇りとなっています。

扇台小学校下の児童を中心に活動し、練習だけでなく地域行事や学校イベントにも積極的に参加しています。地域とのつながりを大切にしながら、子どもたちの健やかな成長を支える場としても親しまれています。

チームのモットーは「この瞬間を全力で」。思い切り打ち、丁寧に守り、一つひとつのプレーを大切にしながら、仲間と共に勝利を目指します。仲間のプレーに共感し、思いやりのある声掛けを欠かさず、チームの和を大切にする姿勢は、扇台クラブの伝統そのもの。これからも地域と共に歩み、子どもたちの夢と笑顔を育んでいきます。

年	監督	主将	選手
2025	宮川茂己	小野田草太	20 名
2024	宮川茂己	金岡佑樹	14 名
2023	宮川茂己	高光結梨奈	15 名
2022	宮川茂己	青山旺志郎	17 名
2021	宮川茂己	石川大翔	21 名
2020	宮川茂己	水上雄介	13 名
2019	和田卓也	新田紘生	21 名
2018	和田卓也	西出光汰	20 名
2017	高橋浩史	平光希	17 名
2016	高橋浩史	小竹康生	21 名
2015	高橋浩史	大谷涼馬	19 名
2014	山上清一	西出陽佑	26 名
2013	山上清一	高橋智弘	24 名
2012	水口敏春	河内翔太	23 名
2011	水口敏春	田畠斗真	28 名
2010	水口敏春	織田彩聖	29 名
2009	水口敏春	小川星矢	20 名
2008	水口敏春	小坂優太	24 名
2007	水口敏春	澤村達也	25 名
2006	水口敏春	曾田悠斗	23 名
2005	水口敏春	河内涼太	30 名
2004	水口敏春	小国和樹	30 名
2003	水口敏春	野手達也	25 名
2002	水口敏春	横山達彰	25 名
2001	水口敏春	宮岸侑平	23 名
2000	柿沢康彦	岡裕之	18 名
1999	柿沢康彦	川本竜太郎	13 名
1998	柿沢康彦	横山利彰	19 名
1997	柿沢康彦	野手景太	22 名
1996	柿沢康彦	松本淳一	17 名
1995	柿沢康彦	津口広平	18 名
1994	武内重一郎	橋伸伍	18 名
1993	武内重一郎	石田孝義	19 名
1992	武内重一郎	西宏人	15 名
1991	武内重一郎	北川真也	18 名

押野クールボーイ



第二十七回生宣讀



押野クールボーイは、金沢市南部に位置する明治6年創立の歴史ある押野小学校の生徒で構成されたチームです。8年間の休部期間を経て、令和の新しい時代に再始動いたしました。再出発にあたり、

①挨拶がしっかりできるチーム
 ②思いやりの心があるチーム
 ③小学校・地域から応援されるチーム
 を目標に掲げ、野球の技術だけでなく、人としての成長を大切にした活動を行っています。

活動は土日祝日のみ、押野小学校のグラウンドで行っており、校庭にそびえるシンボルの大きなクスノキに見守られながら、子どもたちは日々声を掛け合い、汗を流しています。野球を通して仲間との絆を深め、感謝の気持ちや礼儀を学ぶことを大切にしています。

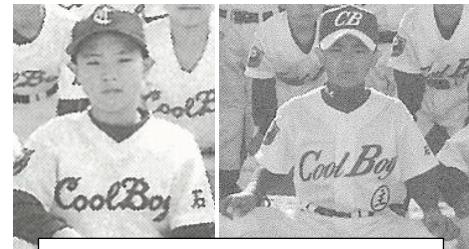
復活当初は少人数でのスタートでしたが、地域やOB、保護者の皆さまの温かい支えを受け、チームは一歩ずつ成長を続けています。これからも押野クールボーイは、地域に愛されるチームを目指し、子どもたちの笑顔と元気な声が響くグラウンドづくりに努めてまいります。

初出場 1977年

- ・押野クールボーイ(1977)
(初期は西部地区で登録)
- *2017~2024は登録なし

主な戦績

- ・ブロック大会 優勝 6 準優勝 3
- ・春季大会 準優勝 2
- ・夏季大会 準優勝 3
- ・秋季大会 優勝 1 準優勝 2
- ・新人大会 優勝 1 準優勝 4
- ・県大会出場 10回



過去のユニフォーム

年	監督	主将	選手
2025	山作昌誉	木村将吾	14名
2016	済田貴典	山崎弘稀	10名
2015	済田貴典	平田有偉	14名
2014	済田貴典	時国秀百	16名
2013	済田貴典	時国秀百	11名
2012	済田貴典	渡辺竜哉	17名
2011	坂下昌	前田凌大	14名
2010	坂下昌	山口凌世	17名
2009	坂下昌	谷川刀麻	21名
2008	山下靖	米林俊哉	23名
2007	山下靖	湯田健生	25名
2006	山下靖	山下大貴	23名
2005	山下靖	寺本晃治	24名
2004	山下靖	川口貴信	25名
2003	山下靖	熊谷歩	20名
2002	山下靖	東隼人	23名
2001	山下靖	千田光紀	21名
2000	山下靖	済田哲也	26名
1999	山下靖	川口泰裕	23名
1998	田中一郎	新保彰悟	25名
1997	田中一郎	地原武佐志	17名
1996	北崎隆二	香林雄斗	13名
1995	北崎隆二	金平直人	17名
1994	北崎隆二	宮嶋祐一	16名
1993	北崎隆二	山口隆史	20名
1992	北崎隆二	竹村佳紘	15名
1991	北崎隆二	杉本文直	24名



四十万サンデーズ



四十万サンデーズは、1983年に四十万小学校の開校と同時に、校下の2チームが合併して結成され、今年で43周年を迎えるチームです。

私たちのチームは、野球の技術向上だけでなく、子供たちの心技体を総合的に育み、成長をサポートし、社会で活躍できる人間を育てることを目標としています。何よりも大切なのは、子供たちが野球を心から楽しみ、将来にわたって野球をはじめ様々なスポーツを続けていきたいと思えるような経験の場にしたいと考えています。

結成40周年の節目に、チーム発足時から指導していただいた監督から現監督に交代し、チームも新たなスタートを迎え、野球を通じて子供たちの適性を伸ばし、チームとしての連帯感や協調性を育成すること、他者を尊重する心を育むこと、挨拶・礼儀・道具を大切にすることなど、野球以外の面でも規律を重んじ、社会のルールを学ぶことなどを大切にしながら活動を続けています。

これまで先輩たちが築き上げてきたチームの歴史を継承し、これからも地域の皆様に応援をいただきながら、子供たちが大好きな野球を精一杯楽しんでプレーし、活躍することができる環境を守っていきたいと思います。



初出場 1983年

・四十万サンデーズ(1983)
*四十万ピックファイターズと額
サンデーズが合併してチーム結成

主な戦績

- ・ブロック大会 優勝 2 準優勝 3
- ・春季大会 準優勝 1
- ・夏季大会 準優勝 1
- ・新人大会 優勝 2 準優勝 1
- ・FJ 春季大会 準優勝 1
- ・FJ 秋季大会 準優勝 1
- ・県大会出場 8回



年	監督	主将	選手
2025	田保泰夫	山本詩喜	21名
2024	田保泰夫	坂井虹太	23名
2023	田保泰夫	金山透也	21名
2022	勝見正靖	増永隼士	21名
2021	勝見正靖	真鍋晴琉	26名
2020	勝見正靖	河村創一	24名
2019	勝見正靖	北村昊音	22名
2018	勝見正靖	金田昇大	22名
2017	勝見正靖	槙野陸人	17名
2016	勝見正靖	藤江真白	19名
2015	勝見正靖	大河翔	21名
2014	勝見正靖	小川悠太郎	22名
2013	勝見正靖	谷内希成	27名
2012	勝見正靖	津田郡司	24名
2011	勝見正靖	小川宙輝	19名
2010	勝見正靖	上田創介	28名
2009	勝見正靖	中崎航太郎	27名
2008	勝見正靖	鳥畠凌	20名
2007	勝見正靖	川崎俊也	23名
2006	勝見正靖	中崎諒也	30名
2005	勝見正靖	木村元威	22名
2004	勝見正靖	山内浩平	26名
2003	勝見正靖	山内雄介	20名
2002	勝見正靖	松本章宏	18名
2001	勝見正靖	島祐大	18名
2000	勝見正靖	木下浩之	27名
1999	勝見正靖	山本周平	23名
1998	勝見正靖	柴山大	24名
1997	勝見正靖	寺尾京介	21名
1996	勝見正靖	井元寛之	18名
1995	勝見正靖	浜崎直樹	16名
1994	勝見正靖	宮前剛志	19名
1993	勝見正靖	坂井友哉	19名
1992	勝見正靖	玉田啓浩	18名
1991	勝見正靖	宮本秀志	15名



新神田ウイングス



初出場 1985 年

・新神田ウイングス(1985)

主な戦績

- ・ブロック大会 優勝 1 準優勝 1
- ・県大会出場 3 回



過去のユニフォーム

金沢市学童野球連盟創立 50 周年おめでとうございます。

長きにわたり、地域の子どもたちに野球を通じて健全な心身の育成と、仲間との絆を深める場を提供してくださったことに、感謝申し上げます。

私たち新神田ウイングスは、金沢市新神田地区を拠点に活動する学童野球チームで、今年で創立 42 周年を迎えました。現在、元気いっぱいの児童たちが、仲間とともに汗を流しながら日々練習に励んでいます。金沢市学童野球連盟のスローガンである「5つの誓い」を柱とし、勝敗だけでなく、礼儀や協力の大切さを学びながら、野球を通じて人としての成長を目指しています。

指導者・保護者・地域の皆様の温かい支えのもと、子どもたちは一歩ずつ前進し、時には悔し涙を流すこともありますが、仲間とともに成長を重ねています。これからも「新神田ウイングス」は、野球を愛する仲間とともに、夢に向かって羽ばたいてまいります。

今後とも金沢市学童野球連盟のますますのご発展をお祈り申し上げます。

年	監督	主将	選手
2025	白川仙泰	吉田望歩	16 名
2024	吉藤久弥	横山遼	17 名
2023	吉藤久弥	小森蓮司	12 名
2022	吉藤久弥	塙本悠隼	11 名
2021	吉藤久弥	佐部空琉	14 名
2020	藤木勝	佐部空琉	11 名
2019	藤木勝	佐部昊真	14 名
2018	藤木勝	岩本快琉	11 名
2017	藤木勝	近藤純一郎	15 名
2016	藤木勝	近藤純一郎	11 名
2015	藤木勝	増永圭汰	11 名
2014	菅野桂一	室木太陽	13 名
2013	菅野桂一	菅野桂春	14 名
2012	菅野桂一	中嶋圭輔	21 名
2011	奥村信一	新村大樹	19 名
2010	奥村信一	新畠大貴	11 名
2009	奥村信一	藏谷輝斗	16 名
2008	奥村信一	荒木智成	18 名
2007	奥村信一	中山昌駿	15 名
2006	小名川博志	作田将	17 名
2005	小名川博志	麻生啓太	21 名
2004	谷謙一	北村卓也	23 名
2003	谷謙一	酒井拓士	21 名
2002	谷謙一	泉悠也	18 名
2001	谷謙一	酒井佑士	18 名
2000	寺井繁	泉大樹	11 名
1999	寺井繁	中村匠	22 名
1998	寺井繁	石井悟	22 名
1997	寺井繁	石井悟	13 名
1996	寺井繁	北川祐介	14 名
1995	坂下敏治	加藤隆夫	12 名
1994	坂下敏治	大久保貴司	13 名
1993	坂下敏治	垣内満	13 名
1992	坂下敏治	益田健介	13 名
1991	坂下敏治	松村誠之	27 名

西南部サンボーズ



過去のユニフォーム



2008年～現在(2025年)に至る

この度、金沢市学童野球連盟創立 50 周年を迎えることを心からお喜び申し上げます。

1986 年、西南部小学校校下にて地域の声が高まり、チームが結成されました。

結成当初より「汗と涙と栄光」をスローガンに掲げ、チーム一丸となって、選手たちと共に汗や涙を流し栄光を目指してこれまでチーム活動を取り組んできました。

チーム名の サンボーズ は英語で SUN(太陽)BOYS の意味で、「太陽のように輝く子供たち」という想いが込められています。

その想いが実り、創部以来その名に恥じない成績を収めることができました。その中でも 2009 年の高円宮賜杯第 29 回全国大会マクドナルド・トーナメントにて全国制覇という大きな目標を達成することができました。また、この 10 年の間では 2024 年の第 44 回大会への切符を手にし、石川県代表として 7 度目の出場を果たすことが出来ました。この経験を糧に、チームとして大きく成長し現在に至っています。

日頃より皆様から多大なるご支援を賜り感謝申し上げます。おかげさまで西南部サンボーズは今年創部 40 周年という節目の年を迎えることができます。

これまで築き上げてきたチームの歴史を大切に継続し、より一步踏み出せるよう西南部サンボーズらしくこれからも歩んでいきます。

初出場 1986 年

・西南部サンボーズ(1986)

主な戦績

- ・ブロック大会 優勝 13 準優勝 4
- ・春季大会 優勝 8 準優勝 2
- ・夏季大会 優勝 4 準優勝 2
- ・秋季大会 優勝 6 準優勝 2
- ・SJ 大会 優勝 2
- ・新人大会 優勝 5 準優勝 1
- ・FJ 春季大会 優勝 4 準優勝 2
- ・FJ 秋季大会 優勝 4 準優勝 3
- ・県大会出場 38 回
- ・全国大会出場 1994、1996、1997、2000、2009(全国制覇)、2010、2024



年	監督	主将	選手
2025	北川貴昌	藤森絢斗	21名
2024	北川貴昌	竹村琥太郎	23名
2023	北川貴昌	多田倅成	18名
2022	北川貴昌	大竹口優汰	26名
2021	北川貴昌	馬渕晴渡	24名
2020	北川貴昌	谷島敦希	21名
2019	北川貴昌	多田純成	18名
2018	北川貴昌	相原空走	18名
2017	北川貴昌	谷島大希	12名
2016	北川貴昌	秋山友政	15名
2015	北川貴昌	北川堅心	15名
2014	三輪博史	田中基泰	12名
2013	三輪博史	高澤海都	11名
2012	三輪博史	牧口達哉	12名
2011	三輪博史	田島大輔	18名
2010	三輪博史	畠中陸	26名
2009	三輪博史	飯田小次郎	28名
2008	三輪博史	北川寛大	28名
2007	三輪博史	三輪政史郎	23名
2006	三輪博史	東川幸平	20名
2005	三輪博史	谷口亮輔	11名
2004	三輪博史	岡本和也	17名
2003	林利章	中宮拓斗	17名
2002	林利章	林広典	18名
2001	村中一樹	枝中一樹	18名
2000	中村幸雄	藤岡竜次	20名
1999	中村幸雄	東野央	24名
1998	中村幸雄	山下亮平	17名
1997	中村幸雄	加納啓伍	27名
1996	中村幸雄	小林智海	17名
1995	中村幸雄	今井順一	20名
1994	中村幸雄	勘純一	19名
1993	成田村幸	島田健二	25名
1992	中村幸雄	成田村章	17名
1991	中村幸雄	河合浩二	20名

全国大会出場の思い出 西南部サンボーズ(2024年)



西南部サンボーズ 監督 北川貴昌

この度は金沢市学童野球連盟創立 50 周年にあたり心よりお喜び申し上げます。

また、日頃より理事長をはじめ連盟役員の皆様方の多大なるお力添えを賜り感謝申し上げます。

弊チームは 2024 年の第 44 回大会にて 2010 年以来、石川県代表として 14 年ぶり 7 度目となる出場を果たしました。

2009 年の全国制覇を経て、チーム目標に日本一を掲げて取り組んできましたが、前監督 三輪博史氏より監督交代し、伝統あるチームを継承することは並々ならぬ努力ではないことを痛感しました。重圧と使命感に追われた日々は忘れられません。

その 10 年前に覚悟を決めたスローガンは「三位一体」。選手だけでなくスタッフ・保護者方が同じ目標に向かってサンボーズらしく活動することを念頭に活動してきました。その積み上げてきた結果がチームとして新たなる歴史の 1 ページを築くことになったのは、当世代だけでなくこの 10 年間にチームに携わったすべての皆様方の成果であり、お世話いただいた皆様方にも大いに感謝申し上げます。

最も印象に残っているのは、石川県大会の決勝戦のことです。日頃から選手達には「負けて泣くより後悔しない努力をし、勝って涙を流そう」と語りかけてきましたが、優勝が決まった瞬間、選手達がベンチで喜びの笑顔ではなく、号泣し泣き崩れていた様子を目の当たりにしました。今まで見たこのとのないその姿に感銘を受け、本当の努力をした結果の表れだと、今でもその姿が印象的で目に焼き付いています。

全国大会においては、6 年生が 4 人と少なく、5・4 年生まで含めたメンバー構成とし大会に挑みましたが、愛知県の強豪チームに 1 回戦で敗退する結果となりました。それでも、全国大会を一言で言うならば「もう一度行きたくなる特別な場所」です。

選手達は全国大会という壮大な緊張感を味わって、本来の実力を十分に発揮できない様子にも感じましたが、その鼓動を抑え最後まで諦めず攻める姿勢を見させてくれました。開会式では神宮球場に足を踏み入れ、そのフィールドからの景色を観た事。寄付金を募ってスポンサー様をはじめたくさんの方々が応援し支えてくれている事。全国大会の試合でも変わらない声援があり、親御さん方が共に戦っている事など、選手たちにとっても、チームにとっても、数多くのかけがえのない経験をさせていただきました。改めて感謝申し上げます。

これから先もこれまでの経験を活かし、全国大会で忘れてきた勝利を掴み取るまで「汗と涙と栄光」をモットーに、チームとしての成長を積み上げていけるように精進していきます。

最後に、金沢市学童野球連盟の皆様の益々のご発展を祈念いたします。

高尾台アストロズ



金沢市学童野球連盟の創立 50 周年を心よりお祝い申し上げます。

創立から今まで運営に携わってこられた役員ほか関係各位の皆様、今日、学童野球の選手たちが野球に励むことができるのも皆様方のご苦労のおかげです。誠にありがとうございました。

私たち高尾台アストロズは 2020 年(令和2年)に富桜シルバーズと伏見台ファイターズが合併してできた創部6年目のチームです。

チームとしての歴史は浅いですが、元々歴史のあるチーム同士の合併であり、お互い持っていたノウハウの良い部分を取り入れながら活動しています。

子どもたちは常に仲間を思いやり、感謝の気持ちを大切にして練習に励み、「一戦必勝」をスローガンに、どんな状況でも諦めず、一戦一戦全員野球で勝利を目指しています。

活動を通じて仲間の大切さ、優しさを学べるチームでありたいという気持ちを胸に、今後も取り組んでいきたいと思います。

初出場 2020 年

- ・高尾台アストロズ(2020)
- *富桜シルバーズと伏見台ファイターズが合併してチーム結成

主な戦績

- ・ブロック大会 準優勝 3

合併前チームのユニフォーム



年	監督	主将	選手
2025	白島和樹	小野朝陽	19名
2024	宮崎裕	森龍春	18名
2023	宮崎裕	白島龍樹	18名
2022	宮崎裕	森武虎	16名
2021	宮崎裕	吉野翔太	19名
2020	宮崎裕	加藤海浬	23名

〈富桜シルバーズ〉

年	監督	主将	選手
2019	宮崎裕	加藤海浬	14名
2018	宮崎裕	的場真成叶	14名
2017	宮崎裕	若林発汰	13名
2016	宮崎裕	高木拓朗	12名
2015	宮崎裕	笠嶋倖	12名
2014	宮崎裕	山岸拓磨	16名
2013	宮崎裕	田甫颯人	21名
2012	宮崎裕	杉山銳至	19名
2011	宮崎裕	水上潤也	16名
2010	山田敏宏	細川拓音	15名

〈伏見台ファイターズ〉

年	監督	主将	選手
2019	藤谷克弘	土田悠貴	11名
2018	藤谷克弘	金本康平	16名
2017	中嶋覚	久司昂生	23名
2016	中嶋覚	辻本直人	24名
2015	中嶋覚	的場光生	23名
2014	中嶋覚	松本佳佑	19名
2013	中嶋覚	寺沢孝多	25名
2012	中嶋覚	河村俊平	26名
2011	中嶋覚	中杉光稀	30名
2010	中嶋覚	谷口隼太	38名

額レッドライオンズ



額レッドライオンズは、今年創立 150 周年を迎える金沢市立額小学校の児童で構成された学童野球チームです。創部以来 50 年、野球を通じて「つよく・やさしく・なおく」の精神を育みながら、子どもたちの心身の成長を支えてきました。

50 年の歴史のなかで、これまでに 400 名を超える卒団生を輩出し、大勢の選手、指導者、保護者、そして関係者とともに、数えきれないほどの喜びを分かち合い、時には悔しさに涙した日々も乗り越えてきました。その積み重ねの中で、2011 年と 2019 年には高円宮賜杯全日本学童軟式野球大会にて全国大会出場を果たすことができました。

そして近年では、これまででは考えもしなかった『野球ができない』という苦しみも味わいました。少子化の影響などにより学童野球人口が減少し、チーム数も減る中で、私たち額レッドライオンズは少人数ながらも、高学年から低学年までが一丸となり、互いに支え合いながら活動を続けています。野球ができることへの感謝と、仲間と過ごす時間の尊さを胸に、これからも一歩一歩、前へ進んでまいります。

初出場 1980 年

- ・額レッドライオンズ(1980)
- *光が丘ライオンズ、光が丘レッドタイガースが合併してチーム結成

主な戦績

- ・ブロック大会 優勝 5 準優勝 3
- ・春季大会 優勝 2 準優勝 2
- ・夏季大会 優勝 3
- ・秋季大会 優勝 2 準優勝 2
- ・SJ 大会 優勝 1 準優勝 2
- ・新人大会 優勝 2 準優勝 1
- ・FJ 春季大会 優勝 2 準優勝 2
- ・FJ 秋季大会 優勝 1 準優勝 1
- ・県大会出場 15 回
- ・全国大会出場 2011、2019



過去のユニフォーム

年	監督	主将	選手
2025	田中肖英	池端晃佑	16 名
2024	田中肖英	小窪輝一	19 名
2023	田中肖英	酒井丈輔	14 名
2022	田中肖英	酒井丈輔	12 名
2021	田中肖英	吉田薫人	21 名
2020	塩見明久	中村翔	25 名
2019	塩見明久	田中育心	28 名
2018	塩見明久	星英人	32 名
2017	塩見明久	高柳志琉	34 名
2016	塩見明久	藤村珀人	33 名
2015	塩見明久	大坂裕樹	31 名
2014	塩見明久	高山大河	26 名
2013	塩見明久	大坂樹哉	21 名
2012	塩見明久	西田壯輝	26 名
2011	塩見明久	三井健矢	30 名
2010	塩見明久	尾西宏太	27 名
2009	塩見明久	平田陸	23 名
2008	塩見明久	中村拓哉	29 名
2007	塩見明久	宮下捷	32 名
2006	塩見明久	新田準	38 名
2005	塩見明久	三井康央	29 名
2004	塩見明久	永草剛志	26 名
2003	塩見明久	塩見禎英	22 名
2002	塩見明久	塩見禎英	20 名
2001	塩見明久	森脇亮	17 名
2000	塩見明久	谷森翼	20 名
1999	宮田敏夫	谷森翼	14 名
1998	宮田敏夫	北直樹	16 名
1997	宮田敏夫	澤口将	20 名
1996	宮田敏夫	宮崎元氣	19 名
1995	宮田敏夫	北野良栄	15 名
1994	宮田敏夫	越究人	17 名
1993	宮田敏夫	林圭太	16 名
1992	宮田敏夫	塗師亮二	25 名
1991	宮田敏夫	島田勝己	13 名

金沢市学童野球連盟の皆様、この度は、創立 50 周年誠におめでとうございます。
貴連盟の今後ますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。



あれから 8 年…2 度目の全国（夢を現実へ）

額レッドライオンズ 前監督 塩見明久

2011 年念願の全国大会初出場から 8 年経過、あの時…2011.8.11 神宮球場で特別延長サヨナラ負け、勝利目前での…惜敗から再び全国へチャレンジと目標を掲げて 8 年、やっと実現へ

…執念のヘッズライディング…

2019.6.22 (土) 試合開始 11:54 第 39 回全日本学童野球石川県大会決勝戦 vs 辰口学童野球クラブ（能美市）額レッド先攻、初回 1 点先制するも 2 回裏逆転を許しさらに 5 回にダメ押しの 2 点を追加され、やはり強打の辰口はとにかく打つ。あつという間の最終 7 回表の攻撃へ 3 点差と苦しい状況からもう無理かと思いきや…「額」戦士達は誰一人諦めていなかった。最終回先頭打者の主将は執念の内野安打で出塁、次打者もヒット・四球・エンドランで 1 点返し 2 点差、尚も 2 死 2・3 塁から 3 番打者値千金のセンター前へ 2 点タイムリーで同点…すかさず 3 盗 2 死 3 塁から内野安打でついに逆転！その裏、食い下がる相手打線を継投で抑えて勝利する。

大激戦の上、つかんだ 2 度目の全国切符、感無量であった。最終回の大逆転劇は全選手が全てヘッズライディングを行っていた。日頃の練習で行ってきたことがここで…これぞ執念のヘッズライディング！

…全国大会へ向けて…

チームの調子も徐々に仕上がり、7 月の金沢市夏季大会も優勝。このままのムードで全国へ乗り込みたい。公式行事が続く中、7 月の激励会では地域・学校・県内野球関係者の方々総勢 200 名の出席者の方々に激励して頂いた。

…いよいよ全国へ…

組み合わせも決定、厳しい山であるが動搖無し。初戦は鳥取県代表、歴史と伝統のある東京都中市民球場での第 1 試合（アニメタッチのモデル球場）勝利すれば 2 回戦は再び神宮球場で試合が出来る。しかも相手は前年度優勝の全国常連の多賀少年野球クラブさんとの対戦。

初戦 1 回戦は先制されるも直ぐさま追いつき一気に逆転、さらに加点して継投にて全国初勝利。

翌日の 2 回戦、第 1 試合 vs 多賀少年、6 月の練習試合でお互いの戦力はある程度認識。試合は 1 点先制されその後、ソロホームランを浴びるも再三のピンチを好守の連続で凌ぎ強力打線を 2 点に抑える上出来。しかし攻撃はあと 1 本に苦しみチャンスはあるものの多賀投手陣に無得点で抑えられ万事休す。

全国で戦った 2 試合（5 日間）は選手・保護者・指導者共に生涯忘れられない経験であろう。

「額」戦士達は委縮することなく堂々とした戦いで素晴らしい戦いでした。



末筆ながら全国出場にあたり、ご支援、ご協力を頂きました多くの関係各位に感謝と御礼を申し上げます。

三馬クラブ



金沢市学童野球連盟 50 周年、誠におめでとう御座います。

金沢市学童野球連盟各理事の皆様、金沢市学童野球連盟各チームの指導者、選手、保護者の皆様とともに節目の 50 周年を迎えたことをとても嬉しく、感謝しております。

ここ 10 年を振り返りますと世界中を震撼させたパンデミック、能登半島地震、奥能登豪雨災害、様々な状況下で今日を迎えたのはこの 50 年間の携わった皆様が野球に真摯に向き合い、野球を通じて成長した人間力の賜物だと確信しております。

これからも野球の出来る環境に感謝を忘ることなく、金沢市学童野球連盟のさらなる歴史の積み重ねを御祈念致します。

三馬クラブは昭和 52 年に金沢市内 39 番目のチームとして発足、来年度 50 周年の節目を迎えます。

チームのコンセプトは「明るく」「正しく」「逞しい」です。

“あいさつ”と“行進”をチーム力の原点とし、“キャッチボール”へと繋げています。

卒団生は 450 名を越えており、現在進行形で人生の勝利者を目指し三馬ファミリー皆、各ステージで挑戦しております。

指導者、選手、保護者一丸となり、さらには学校、地域、卒団ファミリーのご協力をいただきながら活動し、選手だけでなく、野球を通じて保護者も親子で成長させていただいております。

指導者の皆様、指導者を支えるご家族の皆様にも感謝を伝えさせていただきます。

いつもありがとうございます。
これからもよろしくお願ひいたします。

三馬クラブ 代表 金浦 良広

初出場 1977 年

・三馬クラブ(1977)

(初期は西部地区で登録)

主な戦績

- ・ブロック大会 優勝 2 準優勝 9
- ・春季大会 優勝 2
- ・夏季大会 優勝 1 準優勝 2
- ・秋季大会 準優勝 1
- ・SJ 大会 優勝 1
- ・新人大会 準優勝 3
- ・FJ 春季大会 優勝 1 準優勝 2
- ・県大会出場 8 回
- ・全国大会出場 2007



過去のユニフォーム

年	監督	主将	選手
2025	前茂	藤井結世	30 名
2024	前茂	藤井結世	20 名
2023	前茂	小村優斗	19 名
2022	前茂	谷江侑哉	16 名
2021	前茂	出口創旺太	15 名
2020	前茂	吉本幸生	20 名
2019	前茂	能美誠也	22 名
2018	前茂	中山裕揮	16 名
2017	前茂	松本一星	16 名
2016	前茂	能美省吾	18 名
2015	前茂	岩田大澄	25 名
2014	前茂	今村拓未	19 名
2013	前茂	富島悠介	23 名
2012	前茂	前川世名	20 名
2011	前茂	山口大輝	27 名
2010	前茂	小山槻大	19 名
2009	前茂	黒田洸太	28 名
2008	前茂	端野佑哉	25 名
2007	前茂	本田弥己	27 名
2006	前茂	高橋諒祐	22 名
2005	前茂	魚野翔太	34 名
2004	前茂	駕谷孝介	34 名
2003	藤崎一夫	越田隼輔	20 名
2002	中尾和夫	高島悠斗	27 名
2001	中尾和夫	井村佳祐	24 名
2000	能崎和夫	中尾太郎	21 名
1999	谷政晴	川島史也	24 名
1998	谷政晴	新田裕介	21 名
1997	谷政晴	池端伸幸	21 名
1996	大松三郎	若林拓	22 名
1995	大松三郎	木村創史	25 名
1994	谷口哲夫	大松尚逸	25 名
1993	谷口哲夫	木村史人	22 名
1992	谷口哲夫	木村史人	19 名
1991	渡辺幸夫	鈴木堅詞	25 名



米泉ドジャース



この度、金沢市学童野球連盟創立50周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

私たち米泉ドジャースは、昭和59年に米泉小学校を拠点として結成された、創部42年目のチームです。地域の皆さんに温かく見守られ、日々練習に励んでおります。

クラブでは、子供達が「生涯野球を続けたい」と思えるほど野球を大好きになり、元気なプレーで最後まで諦めない“粘り強さ”を身につけてほしいと願っております。

また、勝ってチーム全員で喜び、負けて悔し涙を流す中で「仲間を信じる心」を育み、社会に出た時に「礼儀正しく挨拶が出来る人」へと成長してほしい、そんな思いを込めて指導しています。野球だけが全てではありませんが、野球を通して学べることは数多くあります。子供達が健やかに成長し、保護者の皆さんとともに「野球をやっていて良かった」と感じられるチームづくりを目指しております。

近年は、私たちのチームを含め、多くのチームが部員減少という課題に直面しております。それでも、米泉ドジャースのモットーである『堂々と』を胸に、支えてくださる多くの方々への感謝を忘れず、これからも明るく、元気に、観る人をワクワクさせる野球を続けてまいります。

末筆ながら、金沢市学童野球連盟のさらなるご発展と関係各位のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

初出場 1984年

・米泉ドジャース(1984)

主な戦績

- ・ブロック大会 優勝 2 準優勝 4
- ・春季大会 準優勝 1
- ・夏季大会 準優勝 2
- ・秋季大会 優勝 2 準優勝 2
- ・SJ 大会 優勝 1 準優勝 1
- ・新人大会 準優勝 2
- ・FJ 春季大会 準優勝 1
- ・FJ 秋季大会 優勝 1
- ・県大会出場 7回



過去のユニフォーム

年	監督	主将	選手
2025	高橋浩史	澤田透丞	15名
2024	高橋浩史	澤田透丞	11名
2023	高橋浩史	酒井匡晟	12名
2022	高橋浩史	田中虹輝	10名
2021	高橋浩史	辰野鎧	15名
2020	高橋浩史	竹内絢士	12名
2019	高橋浩史	駒井康太	16名
2018	高橋浩史	駒井康太	13名
2017	木井大	越原橙	11名
2016	木井大	三津元譲	13名
2015	木井大	辰野華武人	12名
2014	木井大	水上巧羽	15名
2013	木井大	山本大陽	19名
2012	木井大	北山慎士郎	20名
2011	木井大	板谷翼	23名
2010	木井大	桜木一希	27名
2009	木井大	佐々木啓佑	26名
2008	木井大	穴田兼也	27名
2007	木井大	山本耕也	21名
2006	木井大	木井皓仁	21名
2005	木井大	高田健吾	20名
2004	木井大	西田康平	20名
2003	木井大	木井拓水	16名
2002	木井大	檜彰宏	15名
2001	木井大	宮崎健太	20名
2000	木井大	山崎弘和	14名
1999	木井大	木下浩太郎	23名
1998	木井大	木下浩太郎	17名
1997	木井大	島晃二	18名
1996	木井大	国沢拓郎	11名
1995	木井大	永井雅	14名
1994	木井大	上野浩二	13名
1993	木井大	忍久保和雄	12名
1992	木井大	辰野尚哉	19名
1991	木井大	市坪秀平	17名



米丸クラブ



過去のユニフォーム

金沢市学童野球連盟の創立 50 周年、誠におめでとうございます。

長きにわたり連盟の発展と学童野球の普及にご尽力された役員・関係者の皆様に、心より敬意と感謝を申し上げます。

米丸クラブも、連盟発足と時を同じくして誕生し、本年で創部 50 周年を迎えます。これまで、数多くの選手たちが先輩方の熱い指導のもと、仲間とともに白球を追いかけ、喜びや悔しさを分かち合いながら成長してきました。現在も「自分を信じて、仲間を信じて」をスローガンに、青空の下で全員野球・全力プレーを胸に活動しています。

監督・コーチの教えを守り、技術だけでなく「スポーツマン精神」「フェアプレー」「礼儀」を大切にし、仲間を思いやる気持ちを育んでいます。子どもたちは勝敗を超えて、野球の楽しさと仲間の大切さを学び、保護者や地域の方々と共に成長しています。

これからも、半世紀にわたる歴史と伝統を受け継ぎ、地域・学校・選手・スタッフ・保護者が一体となって、よりよいチームづくりと学童野球の発展に努めてまいります。末筆ながら、金沢市学童野球連盟のさらなるご発展と、未来を担う子どもたちの輝かしい成長を心よりお祈り申し上げます。

初出場 1976 年

・米丸クラブ(1976)

(初期は西部地区で登録)

主な戦績

- ・ブロック大会 優勝 8 準優勝 6
- ・春季大会 優勝 2 準優勝 3
- ・夏季大会 優勝 1 準優勝 5
- ・秋季大会 優勝 1 準優勝 2
- ・SJ 大会 準優勝 1
- ・新人大会 優勝 2 準優勝 1
- ・FJ 秋季大会 準優勝 1
- ・県大会出場 20 回

年	監督	主将	選手
2025	池田淳	山本龍牙	28 名
2024	池田淳	山本彪牙	27 名
2023	池田淳	菊池朋希	24 名
2022	池田淳	古田惺也	26 名
2021	池田淳	今村奏太	21 名
2020	池田淳	池田理宇聖	21 名
2019	仕切義和	竹本翔太	24 名
2018	仕切義和	中村信之介	21 名
2017	仕切義和	相上征士郎	16 名
2016	金平一浩	金平幹都	19 名
2015	金平一浩	濱地翔雲	18 名
2014	金平一浩	塙谷友葵	15 名
2013	堀本芳弘	北島康誠	19 名
2012	堀本芳弘	堀本洸生	24 名
2011	堀本芳弘	下谷真央	23 名
2010	橋爪徹	小竹凱	18 名
2009	橋爪徹	荒井渉	20 名
2008	橋爪徹	吉野駆流	20 名
2007	橋爪徹	久保貴幹	25 名
2006	橋爪徹	磯ヶ谷拓己	26 名
2005	橋爪徹	谷口弘剛	23 名
2004	久保茂行	清瀬良太	22 名
2003	久保茂行	久保翔平	15 名
2002	久保茂行	山田祐希秀	27 名
2001	久保茂行	山崎翔吾	24 名
2000	久保茂行	中村俊久	24 名
1999	南博文	大脇準也	23 名
1998	鍛治修一	鍛治輝吉	20 名
1997	鍛治修一	岩瀬友大	25 名
1996	鍛治修一	安河内聖	21 名
1995	前出和彦	前出和人	21 名
1994	前出和彦	中島佳昭	23 名
1993	生駒寛	藤田勝浩	22 名
1992	生駒寛	小山泰司	23 名
1991	生駒寛	畠洋一	34 名

浅野川ヤンキース



過去のユニフォーム

金沢市学童野球連盟 50 周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

浅野川ヤンキースは昭和 58 年にそれまでの『潟津小学校』に弓取町、三ツ屋町、三口町を通学区域に編入し『金沢市立浅野川小学校』が設立されたと同時に発足しました。

先輩方が築き上げた伝統を受け継ぎ、地域に応援されるチームを目指しています。

現在のチームは昨年金沢市新人大会で 27 年ぶりの優勝、今年は石川県秋季大会にて 3 位と躍進が続いております。

グランド内ダッシュ、ポジティブな声掛け、仲間を一人にしないことを徹底しております。

指導者は野球の楽しさ、厳しさ、礼節、礼儀など家庭で学べないところを手助けしております。野球を長く続けて子供たちが大人になった時に『やっぱり浅野川ヤンキースで野球やって良かったな』を言ってもらえるようにこれからも指導して参ります。

最後に金沢市学童野球連盟におかれましても各チームのために日々ご尽力いただき誠にありがとうございます。これからも益々のご発展を祈念いたします。

初出場 1983 年

・浅野川ヤンキース(1983)
(初期は西部地区で登録、2007 年に北部地区へ変更)

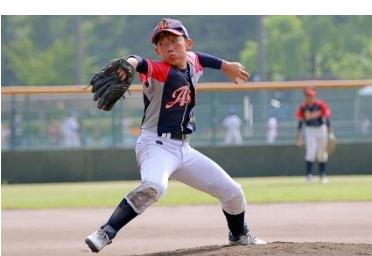
主な戦績

- ・ブロック大会 優勝 4 準優勝 1
- ・春季大会 優勝 2 準優勝 1
- ・秋季大会 優勝 1 準優勝 2
- ・新人大会 優勝 2
- ・FJ 秋季大会 準優勝 1
- ・県大会出場 8 回
- ・全国大会出場 1998



年	監督	主将	選手
2025	川口雄也	川口朝陽	24 名
2024	川口雄也	藤本烈叶	17 名
2023	大地正喜	橋本優悟	13 名
2022	大地正喜	安藤克貴	18 名
2021	大地正喜	岩岸玲真	18 名
2020	大地正喜	町端晃大	21 名
2019	大地正喜	藤本叶夢	23 名
2018	北村哲	林空駕	19 名
2017	北村哲	岩岸寛心	18 名
2016	北村哲	矢部力丸	20 名
2015	北村哲	平澤大翔	19 名
2014	野崎俊一	笠井昂己	21 名
2013	野崎俊一	野崎太雅	28 名
2012	野崎俊一	岡本悠汰	29 名
2011	野崎俊一	亀田創太	28 名
2010	野崎俊一	坂口由季	32 名
2009	野崎俊一	野崎暉	28 名
2008	野崎俊一	加藤拓巳	27 名
2007	野崎俊一	紙谷康介	27 名
2006	野崎俊一	新木吏	21 名
2005	渋谷信孝	原大雅	27 名
2004	北口静三	藤岡智之	21 名
2003	北口静三	出村契志	17 名
2002	北口静三	松木宏樹	19 名
2001	北口静三	小川宗平	16 名
2000	北口静三	羽根木宏拓	19 名
1999	北口静三	高松史弥	20 名
1998	北口静三	松田融	15 名
1997	北口静三	作井伸隆	14 名
1996	北口静三	松田脩平	11 名
1995	北口静三	連俊輔	14 名
1994	北口静三	木野翔一	17 名
1993	中野庸雄	舟田大晃	15 名
1992	中野庸雄	河原雄一	12 名
1991	中野庸雄	松本圭介	21 名

浅野町チャレンジャー

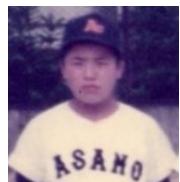


初出場 1976年

・浅野町チャレンジャー(1976)

主な戦績

- ・ブロック大会 優勝 2 準優勝 5
- ・夏季大会 準優勝 2
- ・FJ 春季大会 優勝 1



過去のユニフォーム

金沢市学童野球連盟発足50周年おめでとうございます。

浅野町チャレンジャーは、昭和48年に地域の子供達の体力向上と仲間意識を持つ事を目的に、故安田広佳さんを中心に浅野町校下の皆様の熱意と努力により創部されました。今年で53年目を迎えたが、半世紀以上活動が続けられているのは連盟の方を初めたくさんの方々の支えがあったからで本当に感謝しかありません。

創部当所の昭和48年に第4回少年野球大会第二部石川県大会で城北チャレンジャーとして準優勝しました。その栄光とは反対に、小学校のグラウンドは使用出来ず、旧国鉄金沢操車場の広場の草や石拾いをしてグラウンドの確保をしていました。また、ユニフォーム等も親から買ってもらえる時代ではなく、チームとして準備をしなければならず、地域の方々にグラウンド整備から資金面まで多大な協力を頂いたと伝え聞いています。

現在、浅野町小学校及び明生小学校の児童を中心に25人の選手が野球に取り組んでおり、チームは53年間1度も途絶える事無く活動を続けています。

今年は5年ぶりに金沢城北地区学童野球大会で優勝しました。また、昨年はフレッシュジュニア春季大会で金沢市の大會で悲願の初優勝を成し遂げました。

これからも先代から継承されてきた親子野球で親は子を支え、子は親の期待に応え、伝統を残しつつ新しい風を吹かせるとともに、野球が出来る感謝の気持ちを常に忘れず日々精進していきます。



年 監督 主将 選手
 2025 山下俊郎 山下朔太 22名
 2024 山下俊郎 西村咲翔 20名
 2023 飯田諸幅 山下颯太 20名
 2022 飯田諸幅 福岡正悟 19名
 2021 飯田諸幅 高本志源 21名
 2020 飯田諸幅 平岡空雅 23名
 2019 飯田諸幅 北拓真 20名
 2018 本田正 高本天也 11名
 2017 本田正 室野完太郎 15名
 2016 本田正 遠隼平 10名
 2015 吉藤久弥 堀川燿 12名
 2014 本田正 飯田是侃 11名
 2013 本田正 西村洪惇 16名
 2012 本田正 西尾伊織 20名
 2011 本田正 浅本純 17名
 2010 本田正 柿拓弥 21名
 2009 本田正 浦慎之佑 21名
 2008 本田正 浅田勇希 17名
 2007 大場博之 本田翔 19名
 2006 大場博之 杉本祐真 19名
 2005 大場博之 橋爪順平 16名
 2004 大場博之 安田匡宏 18名
 2003 大場博之 本田司 16名
 2002 大場博之 東晃平 20名
 2001 大場博之 井野山正太 30名
 2000 大場博之 酒井大志 28名
 1999 大場博之 林諒 19名
 1998 松豊 木元諒平 17名
 1997 松豊 中村彰吾 14名
 1996 中道泰 大場徹也 13名
 1995 柿本益夫 林展生 16名
 1994 柿本益夫 松慎吾 15名
 1993 柿本益夫 大場祐一 14名
 1992 柿本益夫 岡本健太 15名
 1991 清谷幸紀 安田光裕 12名

大浦木越ワカバ



初出場 1977 年

・木越ワカバ(1977)

・大浦木越ワカバ(2005)

主な戦績

- ・ブロック大会 優勝 4 準優勝 8
- ・春季大会 準優勝 1
- ・夏季大会 優勝 1
- ・秋季大会 優勝 1
- ・SJ 大会 優勝 1
- ・新人大会 優勝 1 準優勝 2
- ・FJ 秋季大会 準優勝 1
- ・県大会出場 9 回



私たち大浦木越ワカバは、今年で創立 50 周年を迎える学童野球チームです。

昭和 49 年、大浦小学校校下に木越団地が新しい町として誕生し、団地内の 9 名の 1 期生からチームは始まりました。今日までに巣立っていった卒団生の数は 463 名を数え、全国大会出場こそありませんが、数々の大会で輝かしい成績を残しています。現役選手は 6 年生 3 名、5 年生 12 名、4 年生 6 名、3 年生 2 名、2 年生 2 名の計 25 名、うち 4 名は OB の子供たちです。

チーム理念は『野球を通じて、子供たちの「自立」をサポートし、子供たちの可能性を最大限引き出す』

目標達成に向けて、子供たちが自分自身で課題を見つけ、どうしたら解決できるかを自ら考え準備し、トライ & エラーを通じて成長していくことができる環境を提供することをチーム活動の目的としています。

勝つことは大事ですが、勝利を、目的ではなく子供たちの成長を促す手段として捉える「ダブルゴール」をチーム方針として取り組んでいます。

学童野球は入り口の入り口、野球というスポーツを選んでくれた他チームも含めた全ての子供たちが、等しく成長の機会を得られるような、そんな地域コミュニティを皆さんと一緒に創っていけたらと思っています。

年	監督	主将	選手
2025	百々大介	入江諒亮	26 名
2024	百々大介	新田圭悟	21 名
2023	百々大介	寺下詢真	26 名
2022	百々大介	中村優太	27 名
2021	新保健志郎	大竹遙介	21 名
2020	新保健志郎	入江恒太朗	25 名
2019	新保健志郎	市村珀斗	24 名
2018	新保健志郎	百々大地	24 名
2017	新保健志郎	山本隼也	18 名
2016	百々信夫	大平碧人	20 名
2015	百々信夫	小早川大知	14 名
2014	百々信夫	坂井公樹	23 名
2013	百々信夫	市川愛渚	20 名
2012	百々信夫	旭俊輔	28 名
2011	百々信夫	石崎滉佑	30 名
2010	百々信夫	高山康平	32 名
2009	百々信夫	旭亮哉	38 名
2008	百々信夫	北祥吾	39 名
2007	百々信夫	坂本翔輝	42 名
2006	百々信夫	寺内駿馬	39 名
2005	百々信夫	中島啓太	34 名
2004	百々信夫	前野航大	30 名
2003	百々信夫	勝井峻平	32 名
2002	百々信夫	岩田龍成	33 名
2001	百々信夫	西園雄太	27 名
2000	百々信夫	寺越久人	31 名
1999	百々信夫	片岡聰二郎	34 名
1998	百々信夫	高野剛志	30 名
1997	百々信夫	上端拓朗	31 名
1996	百々信夫	北口大斗	26 名
1995	百々信夫	松本匡史	27 名
1994	百々信夫	中島広太	30 名
1993	百々信夫	安田郁夫	33 名
1992	百々信夫	内堀貴史	31 名
1991	百々信夫	山道博司	25 名



小坂イーグルス



金沢市学童野球連盟創立50周年、誠におめでとうございます。

小坂イーグルスは、金沢市学童野球連盟とほぼ同じ長さの歴史を刻んでおり、まもなく50周年の節目を迎えます。

僕たち小坂イーグルスは、今までの多くの先輩方の「野球に対する想い」を受け継いでいくとともに、49年間の多くの先輩方の戦績に負けないよう、「走姿顕心」をモットーに、日ごろの厳しい練習の成果を発揮するため、「成信力」で全員ユニフォームを泥んこにして、最後まであきらめず、「攻める野球」で勝利を目指し頑張ります。



初出場 1977年

・小坂イーグルス(1977)

主な戦績

- ・ブロック大会 優勝 10 準優勝 5
- ・夏季大会 優勝 1 準優勝 1
- ・秋季大会 準優勝 2
- ・新人大会 準優勝 2
- ・県大会出場 8回



年	監督	主将	選手
2025	薮内啓志	山野央祐	18名
2024	薮内啓志	西道麟太郎	19名
2023	薮内啓志	北川滉基	20名
2022	薮内啓志	宮崎浬一	24名
2021	薮内啓志	山岸直太郎	24名
2020	薮内啓志	北川晴生	29名
2019	薮内啓志	田中大雅	30名
2018	薮内啓志	松田佳晃	26名
2017	薮内啓志	堂前大星	19名
2016	薮内啓志	清水陽太	16名
2015	薮内啓志	地崎壱星	20名
2014	薮内啓志	宮崎健樹	23名
2013	薮内啓志	竹中聖誠	26名
2012	薮内啓志	石見俊介	33名
2011	薮内啓志	山下流河	32名
2010	薮内啓志	大瀬陸巳	26名
2009	薮内啓志	石見大樹	30名
2008	薮内啓志	百貫成祐	28名
2007	薮内啓志	前嵐貴	34名
2006	薮内啓志	宮村晃佑	31名
2005	薮内啓志	前亮輔	32名
2004	薮内啓志	池田裕介	33名
2003	薮内啓志	石見啓介	30名
2002	薮内啓志	山崎大吾	35名
2001	杉本正博	広瀬勝己	27名
2000	杉本正博	越川貴博	24名
1999	杉本正博	小林嵩	23名
1998	杉本正博	広瀬健至	22名
1997	杉本正博	小林佑輔	27名
1996	杉本正博	田中雅人	20名
1995	杉本正博	山下拓也	16名
1994	杉本正博	杉本大樹	25名
1993	杉本正博	坪坂裕	24名
1992	杉本正博	高口洋介	23名
1991	杉本正博	山下公嗣	25名

千坂ファイターズ



初出場 1983 年

・千坂ファイターズ(1983)

主な戦績

- ・ブロック大会 優勝 10 準優勝 8
- ・春季大会 優勝 1
- ・夏季大会 優勝 1
- ・秋季大会 優勝 2 準優勝 1
- ・SJ 大会 準優勝 1
- ・新人大会 優勝 2 準優勝 1
- ・FJ 秋季大会 優勝 1
- ・県大会出場 14 回
- ・全国大会出場 1995



過去のユニフォーム

金沢市学童野球連盟の 50 周年を心よりお祝い申し上げます。

連盟の役員の皆様の多大なご尽力に敬意を表し、感謝申し上げますと共に、属する一つのチームとして、今後とも選手にとっても最善の方法を考えながら、野球という素晴らしいスポーツを通じて、金沢市学童野球連盟を盛り上げる事ができれば嬉しく思います。

千坂ファイターズは、選手とそのチーム全員が感謝の気持ちを忘れずに、学校や地域の行事等にも参加して、地域の方にも応援していただけるようなチーム作りを目指しています。選手にも、自分で考えて行動し失敗してもその経験を通して、世の中のあらゆる事に気づき、人間力を付けてもらいたいと願いながら、日々の活動を精進してまいります。



年	監督	主将	選手
2025	柳瀬博範	中井友心	17 名
2024	柳瀬博範	富田駿	17 名
2023	柳瀬博範	鳥倉奏太	19 名
2022	横野真	木村優吾	18 名
2021	横野真	横野大晴	23 名
2020	横野真	浅瀬潔	23 名
2019	知田辰則	山田佳明	25 名
2018	知田辰則	濱坂颯汰	20 名
2017	知田辰則	坂井盈虹	18 名
2016	知田辰則	不島壮	25 名
2015	知田辰則	北市優太	23 名
2014	知田辰則	岡本雅史	19 名
2013	刀祢誠	東咲太朗	20 名
2012	刀祢誠	宮田雄真	23 名
2011	布施充実	田中舜也	24 名
2010	布施充実	金田智博	25 名
2009	柳瀬範夫	知田翔	27 名
2008	柳瀬範夫	小橋慶太	28 名
2007	柳瀬範夫	布施湧都	29 名
2006	柳瀬範夫	武田和磨	28 名
2005	柳瀬範夫	鈴木涼	23 名
2004	柳瀬範夫	橋本暁	21 名
2003	柳瀬範夫	坂寛太	27 名
2002	柳瀬範夫	中薗涼平	29 名
2001	柳瀬範夫	山本大介	34 名
2000	柳瀬範夫	今村純平	32 名
1999	柳瀬範夫	田中澄人	29 名
1998	柳瀬範夫	小山義人	25 名
1997	柳瀬範夫	中井佳祐	27 名
1996	柳瀬範夫	石黒祐文	16 名
1995	柳瀬範夫	北村一	19 名
1994	柳瀬範夫	本間誠	24 名
1993	柳瀬範夫	村中聰	23 名
1992	中野博	柳瀬博範	20 名
1991	中野博	中野貴博	18 名



森本ドリームス

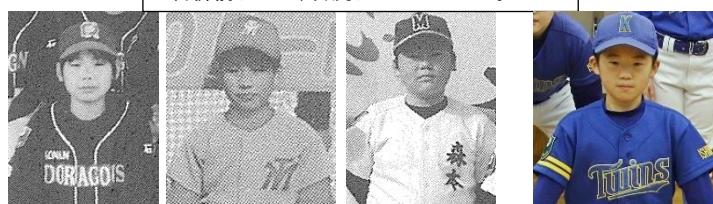


森本ドリームスは、平成19年 森本小学校区内の森本クラブ・南森本タイガース・湖南ドラゴンズが合併して誕生いたしました。その後、令和5年に北金沢ツインズと合併し現在のチームとなっております。ドリームス命名の由来は、方針の異なる各チームが合併して誕生した経緯から、一つの夢に向かって邁進することの願いが込められております。

野球を楽しみながら全力でプレーし、支えて下さる地域の方々への感謝の気持ちを忘れず一戦一戦を大事に戦うことをモットーに、日々練習に励んでおります。

個人個人が目標を掲げ、一生懸命取り組む事、達成する喜び、仲間を信じる心を養いながら、チームの目標達成を目指します。

合併前チーム、合流チームのユニフォーム



初出場 2007年

- ・森本ドリームス(2007)
- *湖南ドラゴンズ、南森本タイガース、森本クラブが合併してチーム結成
- *2023年に北金沢ツインズが合流

主な戦績

- ・ブロック大会 優勝4 準優勝1
- ・新人大会 準優勝1
- ・FJ秋季大会 準優勝1
- ・県大会出場 1回



過去のユニフォーム

年	監督	主将	選手
2025	長井洋	前田春斗	23名
2024	長井洋	山本桃生	22名
2023	長井洋	治村幸太	26名
2022	長井洋	西川遼	19名
2021	森川史郎	吉田洸介	22名
2020	森川史郎	長井朋哉	16名
2019	北島将平	岡田晴太郎	22名
2018	北島将平	中村暁太	26名
2017	北島将平	森上光希	18名
2016	北島将平	小浦天輝	13名
2015	北島将平	金原功宜	18名
2014	北島将平	徳野拓夢	19名
2013	北島将平	才野隆生	22名
2012	北島将平	金原圭祐	25名
2011	北島将平	井上裕貴	27名
2010	北島将平	川北颯	34名
2009	北島将平	三浦虎太郎	36名
2008	北島将平	桔川聖也	48名
2007	北島将平	泉佑樹	47名

〈湖南ドラゴンズ〉

年	監督	主将	選手
2006	北島将平	北島慎二郎	22名
2005	北島将平	鷹栖藍太郎	22名
2004	北島将平	松山眞	28名

〈南森本タイガース〉

年	監督	主将	選手
2006	久田正幸	荒木田正人	25名
2005	久田正幸	糸畠秀勇	20名
2004	久田正幸	荒木田圭佑	20名

〈森本クラブ〉

年	監督	主将	選手
2006	東信雄	前川惇彦	15名
2005	東信雄	奥田涼太	18名
2004	東信雄	嶽秀典	17名

森山ラッキーズ

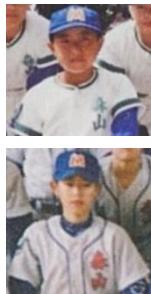


初出場 1985 年

・森山ラッキーズ(1985)

主な戦績

- | | |
|------------|-------|
| ・ブロック大会 | 準優勝 1 |
| ・新人大会 | 準優勝 1 |
| ・FJ 秋季大会 | 準優勝 1 |
| ・県大会出場 1 回 | |



過去のユニフォーム



金沢市学童野球連盟の創立 50 周年、誠におめでとうございます。

野球が大好きな子供達の為に、日々のご尽力に対し厚く御礼申し上げます。

森山ラッキーズは、1985 年創部。今年で 40 周年を迎える事ができました。

連盟 40 周年の寄稿からこの 10 年を振り返れば OB が監督、コーチとなり、OB の子供達が入団して…。地域の子供達の受け皿として団旗に掲げる『継続』を成し遂げられて来れた事に、喜びを感じます。

勿論、この継続は選手、監督スタッフ、保護者の努力だけでなく、金沢市学童野球連盟の皆様、連盟所属のチームの皆さん、森山町小学校、公民館等の地域の皆さんのご支援、ご協力のお陰であります。

近年、胸のはれる戦績は残せていませんが、OB 達が鳴和中学校野球部等で県大会、全国大会出場等の朗報は、私達に元気を与えてくれます。

また 10 年を楽しく振返れる様に、皆様のご協力等を頂きながらチーム一丸となって頑張って参ります。

今日も、森山町小学校のグランドで子供達は元気に野球を楽しんでいます。

年	監督	主将	選手
2025	中野祐二	所村興汰	17 名
2024	山岸謙一郎	坂本瞬玖	16 名
2023	山岸謙一郎	横山輝糸	13 名
2022	山岸謙一郎	山下凌成	16 名
2021	山岸謙一郎	田邊駿	16 名
2020	山岸謙一郎	斎藤昊	16 名
2019	川越光司	松本涼	15 名
2018	川越光司	寺井惺	17 名
2017	川越光司	野木蔵乃介	15 名
2016	川越光司	山峰あかり	13 名
2015	堂義和	中田誠也	14 名
2014	堂義和	山峰晃誠	14 名
2013	堂義和	中村優斗	23 名
2012	吉田英樹	高松己希	21 名
2011	吉田英樹	柄折宏太朗	20 名
2010	吉田英樹	林赳瑠	21 名
2009	吉田英樹	高本怜於	28 名
2008	吉田英樹	北怜能	29 名
2007	吉田英樹	田嶋孝亮	24 名
2006	堀野裕樹	堀野紘治	18 名
2005	堀野裕樹	中屋久人	19 名
2004	堀野裕樹	田嶋大輝	23 名
2003	堀野裕樹	八田和馬	29 名
2002	堀野裕樹	桶谷拓也	35 名
2001	荒井一郎	土田祐伍	28 名
2000	桜井正則	高出達郎	29 名
1999	田野勝春	高黒慎吾	24 名
1998	田野勝春	河合貴成	21 名
1997	田野勝春	田野裕樹	19 名
1996	田野勝春	木村晃裕	16 名
1995	池田外志朗	土田剛太	20 名
1994	池田外志朗	竹田祥章	19 名
1993	池田外志朗	山本剛	23 名
1992	池田外志朗	横山玲央	21 名
1991	岩野清	池田博行	17 名

諸江プリンス



金沢市学童野球連盟発足 50 周年、誠におめでとうございます。

私たち諸江プリンスは、前監督、現代表の松本圭介がこの世に産声をあげた同じ年の 1979 年に発足し、今年で 47 周年を迎えることができました。これも学校の先生方や地域、公民館の方々の支えがあったおかげで現在までの歴史と伝統を築き上げることができました。本当に子どもたちのためにいつもあたたかくたくさん応援をいただきありがとうございます。また、金沢市学童野球連盟におかれましても、選手や各チームのために日々ご尽力いただきありがとうございます。これからも益々のご発展を祈念いたします。

コロナ禍以降諸江プリンスのメンバーも減少傾向にあり、ここ数年での公式戦では厳しい戦いを強いられていますが、今の勝ち負けよりも、次以降のステージで輝き、活躍できる人間や選手を育てていけるよう日々三位一体となり力を合わせ頑張っています。また、社会に出てからの本当の勝負の中で社会での勝ち組となれるよう、日々の活動では野球というツールを活かしながら、野球選手である前に一人の人間であることを伝えて親も子も一緒に成長させてもらっています。

これからも子どもたちには、一番に野球の面白さを伝え、野球を愛し、長く野球に携わってもらえるよう育成して行きます。

最後に、今の連盟所属の子どもたちが金沢市学童野球連盟 100 周年のときに、私たち大人のようにいろいろな形で一人でも多く連盟に携わっていてくれることを心から願っています。

初出場 1979 年

・諸江ベーブルース(1979)
・諸江プリンス(1981)
(初期は西部地区で登録、2007 年に北部地区へ変更)

主な戦績

・ブロック大会 優勝 2 準優勝 5
・夏季大会 準優勝 1
・秋季大会 準優勝 4
・県大会出場 13 回

過去のユニフォーム

年	監督	主将	選手
2025	楠亮	南絢斗	15 名
2024	楠亮	松井徳飛	13 名
2023	松本圭介	石黒煌士	12 名
2022	松本圭介	戸出陽大	13 名
2021	松本圭介	石井涼翔	17 名
2020	松本圭介	中井絢生	25 名
2019	松本圭介	秦雄聖	24 名
2018	松本圭介	中井脩生	26 名
2017	松本圭介	松本隆良	19 名
2016	吉田敏朗	倉大貴	21 名
2015	吉田敏朗	今枝隆音	21 名
2014	水野高士	高橋祐貴	20 名
2013	水野高士	本田広明	21 名
2012	水野高士	吉本海生	26 名
2011	水野高士	竹村公佑	35 名
2010	水野高士	穴田淳也	38 名
2009	水野高士	吉田墨	34 名
2008	中野庸雄	田中智也	31 名
2007	中野庸雄	金谷直純	32 名
2006	中野庸雄	伊藤翔	27 名
2005	井上淳	金谷勇樹	23 名
2004	鎧木浩	安田契	27 名
2003	畠村浩二	足立匠	26 名
2002	畠村浩二	新本智也	20 名
2001	澤利正	橋本知之	26 名
2000	澤利正	村田亮介	23 名
1999	中野庸雄	澤祐樹	27 名
1998	中野庸雄	太郎田優	31 名
1997	中野庸雄	吉川誠	27 名
1996	中野庸雄	勝田哲也	17 名
1995	安江和雄	鷹野雅一	18 名
1994	安江和雄	黒崎太郎	24 名
1993	安江和雄	高野龍二	21 名
1992	吉本潔	勝田茂	22 名
1991	大西信哉	寺本昌史	19 名

夕日寺クラブ



初出場 1979 年
・夕日寺クラブ(1979)

主な戦績

- ・ブロック大会 優勝 11 準優勝 7
- ・春季大会 準優勝 2
- ・夏季大会 優勝 5 準優勝 2
- ・秋季大会 優勝 3 準優勝 2
- ・SJ 大会 優勝 2 準優勝 1
- ・新人大会 優勝 1 準優勝 1
- ・FJ 春季大会 優勝 1 準優勝 1
- ・FJ 秋季大会 優勝 1 準優勝 1
- ・県大会出場 19 回
- ・全国大会出場 2018

過去のユニフォーム



金沢市学童野球連盟が創立 50 周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。創立から今まで運営に携わってこられた役員ほか関係各位の皆さま方には心よりお礼申し上げます。多くの方々のご尽力の結果、私たち夕日寺クラブも創部した昭和 54 年から今日まで 48 周年を迎えることができ、その間様々なステージで野球に携わる卒団生を多数輩出することができました。

私たち夕日寺クラブは、夕日寺小学校の運動場を練習グラウンドとして使用し、地域住民の方々に熱い応援を受けながら、夕日が沈んでボールが見えなくなるまで一生懸命練習に励んでおります。

夕日寺クラブの目標は、

- ①挨拶、マナーで「金沢市ナンバー1」と称されること
 - ②失敗を恐れず果敢にチャレンジし、学童野球選手らしい戦いをすること
 - ③ひとつひとつの試合に対し万全な準備を行い、熱く心を燃やし、冷静にプレーすること
- としており、監督やコーチから指導を受けています。

今年度も他チームとの交流や多く関係者の方々のご支援の結果、第 50 回夏季大会におきましては、8 年ぶりの優勝を果たし、石川県学童軟式野球選手権大会では準優勝することができました。「夕日寺クラブの目標」を念頭とした日々の練習の成果と感じます。これからも地域住民の方々の応援してくれる全ての人たちに対して夢と希望を与えられるチームでありたいと思います。

今後も金沢市学童野球連盟の益々の発展を心よりお祈り申し上げるとともにお祝い申し上げます。

年	監督	主将	選手
2025	中野裕平	松下亮楽	18 名
2024	中野裕平	浅野和真	17 名
2023	中野裕平	山田勝也	18 名
2022	奥成悟	高勇一郎	15 名
2021	奥成悟	中野祐太郎	21 名
2020	末津正外志	福本宙汰	20 名
2019	末津正外志	前田力吉丸	20 名
2018	末津正外志	橋本晏地	21 名
2017	末津正外志	山田泰誠	25 名
2016	末津正外志	森澤優希	23 名
2015	末津正外志	細川太志	17 名
2014	末津正外志	辻龍空	15 名
2013	末津正外志	鷺尾直哉	13 名
2012	末津正外志	奥成航太	13 名
2011	末津正外志	細川功樹	16 名
2010	加藤直樹	末津優志	23 名
2009	加藤直樹	丹保佳三	25 名
2008	加藤直樹	堀大和	29 名
2007	加藤直樹	加藤峻平	28 名
2006	加藤直樹	赤坂拓郎	25 名
2005	加藤直樹	山下雄也	17 名
2004	加藤直樹	野田泰生	19 名
2003	長村和也	中村徹	17 名
2002	長村和也	江川慶祐	16 名
2001	長村和也	上田耀平	17 名
2000	長村和也	細谷雅人	20 名
1999	長村和也	通善吉哲	24 名
1998	山下勝彦	江見勇伍	20 名
1997	山下勝彦	五十嵐徹	21 名
1996	松原秀樹	金山誠	19 名
1995	松原秀樹	羽賀俊文	22 名
1994	松原秀樹	寺田彰吾	27 名
1993	松原秀樹	松原周太	30 名
1992	松原秀樹	森茂晴	23 名
1991	松原秀樹	竹俣裕行	27 名

全国大会出場の思い出 夕日寺クラブ(2018年)



夕日寺クラブ 代表 鶩尾忠浩

金沢市学童野球連盟創立 50 周年おめでとうございます。

今後の一層のご発展をお祈りいたします。

私たち夕日寺クラブが全国大会へ出場したのは、2018 年の第 38 回大会のことでした。

連盟の春季大会では惜しくも決勝で敗れ、第二代表として県大会へ出場。しかし、その県大会では快進撃を見せ、県内各支部の強豪チームを次々に破り、念願の全国大会出場権を手にしました。

決勝戦で勝利を決めた瞬間の光景は、今も鮮明に覚えています。保護者の方々、選手たち、そして普段は涙を見せない監督やコーチまでが、喜びの涙を流し、チーム関係者全員が「涙顔」になっていました。

この年の 6 年生は 40 期生。節目の代での全国出場ということもあり、40 周年の記念式典をはじめとして、まさにイベント尽くしの一年となりました。

特に印象に残っているのは、市民球場で行われた夏季大会開会式での壮行式です。選手・監督・コーチ一人ひとりが紹介され、最後に私がチームを代表して意気込みを述べさせていただきました。緊張の中にも、誇らしい気持ちが胸にあふれたことを今でも覚えています。

その後も、市長や県庁への表敬訪問、地元企業や地域の皆さまからの温かいご支援、さらには最寄りのマクドナルドで行われた激励会など、たくさんの応援をいただきました。多くの方々の支えがあってこそ全国出場だったと、改めて感謝の気持ちでいっぱいです。

そして迎えた全国大会。

初日は開会式のみでしたが、全チーム参加のキャッチボールクラシックや、ヤクルトスワローズも使用するサブグラウンドでの練習など、貴重で楽しい時間を過ごしました。

2 日目、くじ運にも恵まれ、1 回戦は憧れの神宮球場での試合。対戦相手は地元・東京の金町ジャイアンツ。プロ野球の試合さながらにバックスクリーン上のスコアボードには選手名が並んでいました。

当時は 7 回戦制でしたが、7 回で勝負はつかず延長タイブレークの末、惜しくも敗戦。しかし、選手たちは最後まで全力を尽くし、堂々とした戦いを見せてくれました。

今振り返ると、県大会優勝そして全国出場という達成感から、どこかで満足してしまった部分があったのかもしれません。その空気が、子どもたちにも少なからず伝わっていたように思います。

全国大会での勝利をつかむことはできませんでしたが、40 期生の選手たちは今もなお、夕日寺クラブの後輩たちにとって憧れであり、目標の存在です。

後輩たちは彼らに追いつき、追い越そうと日々練習に励んでいます。

私もまた、その日が再び訪れることを信じ、心から楽しみにしています。

金沢市学童野球連盟 50 年のあゆみ

1975 年 (昭和 50 年)	光が丘ホークスが中山晃氏によって創立。金沢市学童野球連盟設立
1976 年 (昭和 51 年) 1 周年	初代理事長:中山晃。浅野町チャレンジャー、湯涌ジャガーズ、米丸クラブ、BBC 金沢、額新ビクトリーと額小学校校下の 1 丁目ホークス、2 丁目ライオンズ、3 丁目レッドタイガースの 8 チームにより金沢市学童野球連盟として活動をスタート。夏季大会、秋季大会を初開催
1977 年 (昭和 52 年) 2 周年	公益社団法人金沢青年会議所にて五つのちかいの草案を作成。春季大会、新人大会を初開催。
1978 年 (昭和 53 年) 3 周年	オープニングラリー初開催(兼六中学校にて)
1979 年 (昭和 54 年) 4 周年	オープニングラリー会場変更(金沢市観光会館)ロック大会を初開催
1980 年 (昭和 55 年) 5 周年	
1981 年 (昭和 56 年) 6 周年	第2代理事長:沖邦広
1982 年 (昭和 57 年) 7 周年	
1983 年 (昭和 58 年) 8 周年	第3代理事長:北森卯一朗。長土堀スターズが全国大会に出場(初)
1984 年 (昭和 59 年) 9 周年	
1985 年 (昭和 60 年) 10 周年	10 周年記念運動会開催。金沢城東メッツが全国大会に出場(初)
1986 年 (昭和 61 年) 11 周年	
1987 年 (昭和 62 年) 12 周年	緑少年野球クラブが全国大会に出場(初)
1988 年 (昭和 63 年) 13 周年	オープニングラリー会場変更(金沢市総合体育館)
1989 年 (平成元年) 14 周年	大徳クラブが全国大会に出場(初)
1990 年 (平成 2 年) 15 周年	第1回日米親善黒潮大会で大徳クラブが全国優勝
1991 年 (平成 3 年) 16 周年	第4代理事長:的場瑛夫。金沢城東メッツが第 11 回全日本学童軟式野球大会(全国大会)出場(2)。初の全国制覇
1992 年 (平成 4 年) 17 周年	
1993 年 (平成 5 年) 18 周年	
1994 年 (平成 6 年) 19 周年	夏季大会開会式を金沢市民野球場で開催(前年迄石川県立野球場)西南部サンボーライズが全国大会出場(初)
1995 年 (平成 7 年) 20 周年	阪神淡路大震災発生(1/17)。20 周年記念大会、記念式典開催。千坂ファイターズが全国大会出場(初)
1996 年 (平成 8 年) 21 周年	西南部サンボーライズが全国大会出場(2)
1997 年 (平成 9 年) 22 周年	選手登録が全学年対象となる(前年までは4年生以上が対象)。4年生以下を対象としたフレッシュジュニア大会を初開催。西南部サンボーライズが全国大会出場(3)
1998 年 (平成 10 年) 23 周年	浅野川ヤンキースが全国大会出場(初)
1999 年 (平成 11 年) 24 周年	
2000 年 (平成 12 年) 25 周年	球ちゃん、がんバットくん、グー坊が誕生、内川スポーツ広場に学童野球専用球場が2面完成。西南部サンボーライズが全国大会出場(4)
2001 年 (平成 13 年) 26 周年	この年からフレッシュジュニア大会を土曜休日に実施。内川スポーツ広場を中心として 8 月に「第 12 回世界少年野球大会石川かなざわ大会」が開催。世界 5 大陸、25 か国からチーム参加。金沢市学童野球連盟が金沢市より「社会体育優良団体」として表彰される。
2002 年 (平成 14 年) 27 周年	4 月から学校週5日制。5 年生以下を対象としたスーパージュニア大会を初開催(2019 年に休止、2024 年に廃止)。緑少年野球クラブが全国大会出場(2)
2003 年 (平成 15 年) 28 周年	戸室スポーツ広場に学童専用野球場が完成。大野クラブが全国大会出場(初)。金沢市学童野球連盟HPを開設。
2004 年 (平成 16 年) 29 周年	第5代理事長:渡辺富男。
2005 年 (平成 17 年) 30 周年	30 周年記念大運動会、30 周年記念式典・祝賀会を開催
2006 年 (平成 18 年) 31 周年	
2007 年 (平成 19 年) 32 周年	能登半島地震発生(3/25)、三馬クラブが全国大会出場(初)
2008 年 (平成 20 年) 33 周年	第6代理事長:三浦清宏。
2009 年 (平成 21 年) 34 周年	西南部サンボーライズが高円宮賜杯第 29 回全日本学童軟式野球大会マクドナルド・トーナメント(全国大会)出場(5)。初の全国制覇。アジアの6か国 12 チームが集い香港で開催された第4回ジュニアカップ少年野球大会に日本代表として出場し準優勝の成績を収める。

2010年 (平成 22年) 35周年	田上ライナーズと西南部サンボーズが全国大会出場。田上ライナーズ(初)、西南部サンボーズ(6:前年度優勝)。
2011年 (平成 23年) 36周年	東日本大震災発生(3/11)。額レッドライオンズが全国大会出場(初)
2012年 (平成 24年) 37周年	金沢市・板橋区学童野球親善交流を開始。参加2チームが板橋区長を表敬訪問。野球を通じて板橋区の学童と交流。
2013年 (平成 25年) 38周年	富樫シルバーズが全国大会出場(初)。金沢市・板橋区学童野球親善交流を実施(2回目)。板橋区から男子と女子の選抜チームを選び、金沢市学童野球連盟からの参加3チームと交流を深める。
2014年 (平成 26年) 39周年	
2015年 (平成 27年) 40周年	北陸新幹線開通(3/14)。40周年記念式典・祝賀会を開催。鞍月ブレイザーズが全国大会出場(初)。金沢市・板橋区学童野球親善交流を金沢市にて実施(3回目)。
2016年 (平成 28年) 41周年	金沢市・板橋区学童野球親善交流を板橋区にて実施(4回目)。
2017年 (平成 29年) 42周年	
2018年 (平成 30年) 43周年	第7代理事長:吉田裕行。夕日寺クラブが全国大会出場(初)。金沢市・板橋区学童野球親善交流を板橋区にて実施(5回目)。
2019年 (令和元年) 44周年	額レッドライオンズが全国大会出場(2)。金沢市・板橋区学童野球親善交流を金沢市にて実施(6回目)。
2020年 (令和 2年) 45周年	世界的な新型コロナウイルス感染症拡大への対策として、チーム活動・連盟行事・大会の中止や運営方法の変更を実施(2023年5月の新型コロナウイルス感染症5類移行まで継続)。
2021年 (令和 3年) 46周年	金沢城東メッツが全国大会出場(2)
2022年 (令和 4年) 47周年	第8代理事長:安崎安徳。金沢市学童野球連盟の女子チーム「金沢球姫」結成。
2023年 (令和 5年) 48周年	金沢市・板橋区学童野球親善交流を板橋区にて実施(7回目)。
2024年 (令和 6年) 49周年	能登半島地震発生(1/1)。被災した能登地方の学童野球選手の受け入れ実施。西南部サンボーズが全国大会出場(7)。石川県で開催のNPBガールズトーナメント2024(全日本女子学童軟式野球大会)に金沢球姫が出場(初)
2025年 (令和 7年) 50周年	50周年記念式典・祝賀会を開催。金沢市・板橋区学童野球親善交流を金沢市にて実施(8回目)。

過去出場チーム

【東部地区】

- ・湯涌ジャガーズ(1976-1998)
- ・味噌蔵シャーカス(1980-2014)

ブロック大会準優勝2、春季大会優勝1、県大会出場1回

- ・材木ラスカルズ(1989-2014)

ブロック大会準優勝1、FJ秋季大会準優勝1、県大会出場1回

※味噌蔵シャーカスと材木ラスカルズが合併し兼六レッドソックス(2015)



【西部地区】

- ・BBC金沢(1976)
- ・金石少連(1977)
- ・金石町野球スポーツ少年団(1978)



- ・金石ブルースターズ(1984-2018) *2019は登録なし

ブロック大会優勝1、準優勝3、春季大会準優勝3、秋季大会準優勝1、FJ春季大会準優勝1、県大会出場7回

- ・大野クラブ(1984) *1988-1989、1993は登録なし

ブロック大会優勝1、春季大会優勝1、夏季大会優勝1、準優勝1、SJ大会優勝1、県大会出場6回

全国大会出場2003

※大野クラブと金石ブルースターズが合流して金沢西ベースボールクラブ(2020)

- ・大徳クラブ(1978-2024)

ブロック大会優勝6、準優勝3、春季大会優勝5、準優勝4、夏季大会優勝2、準優勝3、秋季大会優勝4、準優勝2

SJ大会準優勝1、新人大会優勝3、FJ春季大会優勝1、県大会出場29回

全国大会出場1989

- ・木曳野ジャイアンツ(2005-2006)

FJ春季大会優勝1、FJ秋季大会準優勝1



【南部地区】

- ・光が丘ホークス(1976-1980) *チーム設立は 1975 年 4 月、初年度の新聞表記は「光が丘一丁目」もあり
夏季大会準優勝 1
- ・馬替ジュニアベースボールクラブ(1978-1980)
- ・額新町少年野球クラブ(1976)
→額新ビクトリー(1977-1980)



※光が丘ホークス、馬替ジュニアベースボールクラブ、額新ビクトリーが合併して扇台クラブ(1981)

- ・三十苅サンデーズ(1977-1979) *1980 年に四十万ビッグファイターズへ合流

- ・四十万西ビックファイターズ(1978-1979)
→四十万ビッグファイターズ(1980-1982)



- ・額新保クラブ(1978)

- 一額新保スカイホーク(1979-1981) *1981 年新人大会から扇台クラブへ合流

- ・額サンデーズ(1980-1982)

※四十万ビッグファイターズと額サンデーズが合併して四十万サンデーズ(1983)

- ・伏見ファイターズ(1977)

- 伏見台ファイターズ(1978-2019)

ブロック大会優勝 2 準優勝 5、春季大会優勝 1、秋季大会優勝 1 準優勝 1、FJ 春季大会準優勝 1、県大会出場 6 回

- ・富桜シルバーズ(1979-2019) *チーム設立は 1978 年

ブロック大会優勝 3 準優勝 1、春季大会優勝 1、夏季大会優勝 2 準優勝 1、秋季大会準優勝 1、FJ 秋季大会優勝 1
県大会出場 7 回、全国大会出場 2013

※富桜シルバーズと伏見台ファイターズが合併して高尾台アストロズ(2020)



オリジナルテレカ

- ・光が丘ライオンズ(1976-1979) *チーム設立は 1975 年 7 月

ブロック大会優勝 1、春季大会準優勝 1、夏季大会優勝 1、秋季大会準優勝 1、県大会出場 1 回

- ・光が丘レッドタイガース(1976-1979) *チーム設立は 1975 年 7 月

- ・額谷クラブ(1980-1981)

※光が丘ライオンズと光が丘レッドタイガースが合併して額レッドライオンズ(1980)、1982 年に額谷クラブが合流

【北部地区】

- ・花園クラブ(1980-2015)

ブロック大会優勝 1 準優勝 3、春季大会優勝 1、SJ 大会準優勝 1、新人大会優勝 2 準優勝 1、
FJ 春季大会準優勝 1、FJ 秋季大会優勝 1、県大会出場 1 回



- ・不動寺ブラックジャンボリー(1979)

- ・不動寺ヤングヒッターズ(1981-2015)

ブロック大会準優勝 1、県大会出場 1 回

※花園クラブと不動寺ヤングヒッターズが合併し北金沢ツインズ(2016)

- ・北金沢ツインズ(2016-2022) *2023 年に森本ドリームスへ合流

ブロック大会優勝 1、夏季大会準優勝 1、FJ 秋季大会準優勝 1、県大会出場 2 回



- ・畠丁ヶ丘ジャガーズ(1977)

- ・森本ジャガーズ(1978-1985)

- ・吉原バッファローズ(1978-1985)

※森本ジャガーズと吉原バッファローズが合併し森本クラブ(1986)

- ・森本クラブ(1986-2006)

ブロック大会準優勝 1、県大会出場 1 回

- ・南森本タイガース(1978-2006)

ブロック大会優勝 1、新人大会準優勝 1

- ・大場ドラゴンズ(1978-1997)

→森本湖南ドラゴンズ(1998)

→湖南ドラゴンズ(1999-2006)

ブロック大会優勝 1 準優勝 2、県大会出場 1 回



※湖南ドラゴンズ、南森本タイガース、森本クラブが合併して森本ドリームス(2007)

- ・東金沢ジュピター(1977-1979)

- ・馬場クラブ(1978-1984)

→馬場ライオンズ(1985-1986)

春季大会準優勝 1

金沢市・板橋区友好都市交流事業 親善野球大会のご紹介

金沢市と板橋区は、江戸時代に加賀藩の下屋敷がおかれていたご縁で、2008年(平成20年)7月に「友好交流都市協定」を締結し、様々な交流事業が行われています。こうした交流の一環として、両市・区の学童野球の分野においても互いの交流を深めております。

金沢市学童野球連盟及び東京都板橋区軟式野球連盟では、この取り組みを通じて、それぞれの学童野球の視野の拡大に努めるとともに、更にお互いの郷土の歴史の理解、金沢市・板橋区の友好親善関係の深化・活性化に貢献しております。

2025年は第8回の交流事業が8月1日から3日間、金沢市において開催されました。初日は板橋区選手団による金沢市長表敬訪問、二日目は内川スポーツ広場において男子チーム2試合、女子チーム2試合の交流試合を行い、また夜はキゴ山ふれあい研修センターにてバーベキューとキャンプファイヤーで選手同士の交流を深めました、三日目は金沢市内を観光ボランティア「まいどさん」の案内のもと散策し、金沢の歴史に触れていただき東京への帰路につきました。期間中は天候にも恵まれ、心温まる交流を行うことができました。

《これまでの開催実績》

開催年	開催地	参加チーム
第1回 2012年	板橋区	伏見台ファイターズ、鞍月ブラザーズ
第2回 2013年	金沢市	三和ファイターズ、伏見台ファイターズ、金沢市女子選抜
第3回 2015年	金沢市	田上ライナーズ、金沢城東メッツ、金沢市女子選抜
第4回 2016年	板橋区	伏見台ファイターズ、北金沢ツインズ、金沢市女子選抜
第5回 2018年	板橋区	伏見台ファイターズ、安原野球クラブ、金沢市女子選抜
第6回 2019年	金沢市	三馬クラブ、額レッドライオンズ、金沢市女子選抜
第7回 2023年	板橋区	三和ファイターズ、大徳クラブ、金沢球姫
第8回 2025年	金沢市	西南部サンボーンズ、木曳野ブレーブス、金沢球姫



金沢市学童野球連盟 女子チーム「金沢球姫」のご紹介



金沢市学童野球連盟
金沢球姫

私たち金沢球姫は、チーム創設 4 年目、本格始動から 3 年目を迎えた金沢市の女子学童選手による金沢市学童野球連盟が所管するオリジナルチームです。

少子化の影響や様々な環境の変化により野球に取り組む学童が減少傾向にある中で、女子野球選手は緩やかな増加傾向にあります。そんな中、ここ北陸でも各地域で女子野球を取り巻く環境が徐々に整備されており、石川県で活動する女子野球のクラブチームが全国優勝を果たすなどめざましい活躍を見せております。これは私たち女子学童野球選手や組織にとって、大きな励みとなり、目標の一つとなります。

一方で、課題としてここ北陸では女子学童野球チームはまだまだ少ないと感じており、チーム数の増加が、更なる発展には必要不可欠だと思っております。女子野球チームが増加することで、選手の活動の幅が増え、いい刺激になるものと考えております。

さて、金沢球姫では毎月 2 回のチーム活動を行っております。隔週、金沢球姫として集まり、練習会を中心とした活動を行っており、選手たちの交流はもとより、チームの枠を超えた保護者間の良き情報交換の場として活用しております。特に選手間では、普段ではできない女子同士での交流となるので、特に楽しそうに見受けられます。公式戦では、金沢球姫の選手同士の対戦の中で、試合中でも墨上でのちょっとした会話やアイコンタクトをとる様子を見ると微笑ましくなるのと同時に、どちらのチームも応援してしまい、いつも複雑な思いになります。

私たちは、金沢球姫の選手たちがこれからさらに発展するであろう女子野球の場で、しっかりと目標をとらえ、一人でも多くの選手に輝ける場を提供することを、与えられた使命とし、しっかりと健全育成に努めて参りますので、金沢球姫への更なるご厚意とご指導をよろしくお願い申し上げます。

金沢球姫 監督 稲村 清和



祝　辞



元理事長　三浦　清宏

このたび、金沢市学童野球連盟が昭和51年に産声を上げ、本年創立50周年を迎えたことを心よりお祝い申し上げます。

私が第6代理事長を引き継ぎまして金沢市と金沢マラソン応援ボランティアを締結、また、友好交流都市協定が結ばれている板橋区と金沢市で児童（野球）のスポーツ交流を、金沢市・板橋区長・板橋区軟式野球連盟のご尽力で開催できることになりました。更に、金沢大学医学部の中瀬先生の提案で成長期の児童の野球肘の検査をすることにより早期発見・治療の大切さを頂き実施することができました。これらは、今後も継続されて行かれる事だと思います。

学童野球は、子どもたちにとって単なるスポーツに留まらず、礼儀や協調性、そして目標に向かって努力する大切さを学ぶ貴重な場です。技術の向上はもちろんのこと、仲間を思いやる心や困難に立ち向かう精神力など、人生において大切な多くのことを野球から得ていることでしょう。

金沢市学童野球連盟が「5つのちかい」をもとに、子ども達の心身ともに健やかな成長と地域の活性化に、より一層大きな役割を果たされることに期待しています。

皆様の心に温かい思い出を刻み創立50周年を契機に、金沢市学童野球連盟がさらなる発展を遂げ活動が盛んに行われるとともに、関係者の皆様が益々ご活躍されますことを祈念し、記念誌に寄せるお祝いの言葉とさせていただきます。

祝　辞



前理事長　吉田　裕行

金沢市学童野球連盟創立 50 周年に際し、心よりお祝い申し上げます。

また、これまで本連盟を支えて下さいました傘下のチーム、保護者、理事、先輩諸氏並びに関係各位の皆様に心から敬意を表しますと共に、今後益々の発展を祈念しております。

私は本連盟に 20 年以上関わってきた中で、理事長としては 4 年と短い期間ではありましたが、折にふれ、想いをお伝えして参りました。

この記念すべき日に、改めて少年少女達にメッセージを贈ります。

野球はチームで闘うもの。自分がいて、仲間達がいて、指導者がいて、保護者がいて、その全員がチームとして闘うもの。どちらかが勝ちどちらかが負ける、勝てば喜び負ければ涙。しかしその価値は、勝ち負けにではなく、チームの支えのもと努力を続けてその場に自分自身が立てていることにあるのです。

「喜びは、達成にあるのではなく、そこまでの継続した過程の中にある。最も尊いのは、成果ではなく、諦めず継続してきた自分自身の誇りにある。継続した過程を大事にする心があれば、その努力は必ず報われる。」

努力は、自分一人で成し遂げられたものではありません。そこに仲間達の、指導者の、保護者の支えがあつてのことです。どうかその支えに対し感謝して下さい。

チャンスにピンチに、自分自身を仲間を奮い立たせて立ち向かい、気持ちと力が及ばない時にはカバーし合い、チームの応援に鼓舞され背中を押される時、継続してきた誇りと強き心を胸に、成果を得た時にではなく、その場に立てている時に感謝するのです。

限界は君達が感じる遙か先にある。

共に築いた仲間は生涯の宝、

誰にも誇れる最高のチームワーク、

自分で考え実行する逞しい心と身体を兼ね備えたリーダーへの成長、

その先には、頑張り続けた者にしか得られない心搖さぶる感動が待っている。

頑張れ金沢球児達。

登録チーム・選手数の変遷

(1991年以降)

		東部地区		西部地区		南部地区		北部地区		合計
		チーム	選手	チーム	選手	チーム	選手	チーム	選手	
1991年	(平成3年)	11	285名	12	284名	11	235名	11	212名	45 1016名
1992年	(平成4年)	11	221名	12	251名	11	209名	11	223名	45 904名
1993年	(平成5年)	11	222名	12	224名	11	207名	11	234名	44 887名
1994年	(平成6年)	11	202名	12	227名	11	208名	11	229名	45 866名
1995年	(平成7年)	11	179名	12	244名	11	194名	11	195名	45 812名
1996年	(平成8年)	11	216名	12	228名	11	190名	11	200名	45 834名
1997年	(平成9年)	11	243名	12	257名	11	228名	11	243名	45 971名
1998年	(平成10年)	11	266名	12	277名	11	234名	11	235名	45 1012名
1999年	(平成11年)	10	236名	12	272名	11	233名	11	252名	44 993名
2000年	(平成12年)	10	253名	12	283名	11	222名	11	277名	44 1035名
2001年	(平成13年)	10	312名	13	286名	11	235名	11	256名	45 1089名
2002年	(平成14年)	10	298名	12	306名	11	228名	11	269名	44 1101名
2003年	(平成15年)	10	276名	13	316名	11	212名	11	245名	45 1049名
2004年	(平成16年)	10	283名	13	332名	11	262名	11	242名	45 1119名
2005年	(平成17年)	10	305名	14	341名	11	259名	11	233名	46 1138名
2006年	(平成18年)	10	298名	13	332名	11	255名	11	253名	45 1138名
2007年	(平成19年)	10	286名	13	341名	11	258名	9	264名	43 1149名
2008年	(平成20年)	10	289名	11	305名	11	251名	11	316名	43 1161名
2009年	(平成21年)	10	266名	11	305名	11	256名	11	312名	43 1139名
2010年	(平成22年)	10	269名	11	313名	11	255名	11	300名	43 1137名
2011年	(平成23年)	10	241名	11	288名	11	247名	11	267名	43 1043名
2012年	(平成24年)	10	237名	11	280名	11	232名	11	246名	43 995名
2013年	(平成25年)	10	209名	11	241名	11	215名	11	216名	43 881名
2014年	(平成26年)	10	184名	11	233名	11	199名	11	190名	43 806名
2015年	(平成27年)	9	179名	11	218名	11	201名	11	182名	42 780名
2016年	(平成28年)	9	173名	11	198名	11	195名	10	183名	41 749名
2017年	(平成29年)	9	170名	11	188名	10	174名	10	184名	40 716名
2018年	(平成30年)	9	174名	11	194名	10	183名	10	206名	40 757名
2019年	(令和元年)	9	186名	10	195名	10	190名	10	220名	39 791名
2020年	(令和2年)	9	205名	10	171名	9	170名	10	217名	38 763名
2021年	(令和3年)	9	187名	10	166名	9	176名	10	198名	38 727名
2022年	(令和4年)	9	191名	10	172名	9	155名	10	183名	38 701名
2023年	(令和5年)	9	183名	10	168名	9	153名	9	167名	37 671名
2024年	(令和6年)	9	184名	10	191名	9	172名	9	162名	37 709名
2025年	(令和7年)	9	177名	9	191名	10	200名	9	180名	37 748名

※本誌面におけるチームデータ、並びに大会結果は新聞掲載記事(1982年以前は試合結果記事、1983年以降は新聞紙面のチーム紹介)、連盟冊子(1991年～2025年)、その他資料を基に作成しております。

※過去のチームデータにつきまして、掲載記事等を元に作成・表記しているため正確な事実と異なることがあるかもしがれませんがご了承ください。

※大会結果の「SJ大会」はスーパージュニア大会、「FJ大会」はフレッシュジュニア大会の略です。またスーパージュニア大会、並びに新人大会の優勝・準優勝の回数は、それぞれブロック別で開催した後の決勝大会(4地区の優勝チームで開催)の結果も反映しております。

※大会結果の詳細については、毎年発刊される連盟冊子(YEARBOOK)をご参照ください